

# วารสาร กรุงเทพฯ カルテック

2018 AUG  
VOL 26 (606)



泰国日本人会



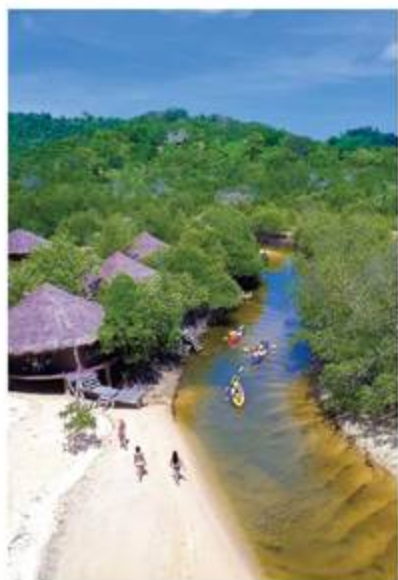
วารสารกรุงเทพฯ ฉบับประจำเดือน สิงหาคม 2561



P16



P20



表紙：パヤム島

場所：ラノーン県

UNSEEN THAILAND 未だ見ぬタイへ

タイ南部のアンダマン海に面したラノーン海洋国立公園内に浮かぶゴ(島)・パヤムは、面積約35km<sup>2</sup>、人口500人の島です。西海岸は豊かな珊瑚礁に恵まれたシュノーケリングスポット。マングローブの生い茂る東海岸は、シーカヤックが人気です。島はカササギサイチョウを観察できる場所としても知られています。名産はカシューナッツ。甘みがあっておいしいと評判です。

写真提供/タイ政府観光局

Copyright of The Tourism Authority of Thailand

## 8月号 目次

### 【特集】

03 学校だより拡大版

## チャーム臨海学校

ONE FOR ALL, ALL FOR ONE ～一心～

バンコク日本人学校 小学部5学年主任 溝越由仁

チャーム臨海学校を終えて

齋藤好乃花 井上琴葉 田原まりか 柴田佳歩

16 学校を再建したい!

クラウドファンディングにチャレンジする山間の養護施設兼学校

## 知ってほしい「虹の学校」の挑戦

片岡朋子 片岡鉄男

35 第42回タイ国日本人会ソフトボール大会  
出場チーム紹介

選抜リーグ12チーム・一般リーグ11チーム、総勢499名の「バンコク球児」が参戦!

### 【活動報告】

18 タイクラフト講習会 【婦人部】

タイ山岳民族の伝統工芸の世界 ポー・カレン族の織物に触れる

20 タイを知る会30周年記念 タイ伝統操り人形劇 【文化部】タイを知る会

22 国際文化交流チャリティーイベント

～おもてなしの心で繋ぐ～SMAILE 【文化部】民舞・日舞・よさこい同好会

23 キッズラグビー教室2018開催 【運動部】ラグビー同好会

24 ミニ剣道大会開催 【青少年部】剣道サークル

25 ワットリアップ育英基金伝達式 【事業部】

### 【作品発表】

14 メナム句会

34 バンコク短歌会

### 【連載】

08 **バンコクの日本人 最終回** 村嶋英治

バンコクの日本人、戦前の日本人会歴代会長

15 **タイのお菓子は二度おいしい** ムシカシントーン小河修子

古のインドからタイにも日本にも伝播したガネーシャの好物

カノム・トム・カーオ

26 **河の都アユタヤー** レヌカー・M

トライローカナート王の息子たち(3)

### 【広報欄】

28 理事会議事録(6月度)

32 バンコク子ども図書館 8月の新着本紹介

32 **連載「バンコクの日本人」の著者・村嶋英治氏講演会のお知らせ**  
**「戦前のタイ国日本人会の史実に迫る」**

33 ゴルフ部月例会成績

33 編集後記

39 **すくすく会通信 Vol.4**



P15

# CHAAM

# チャーム 臨海学校

◎特集 学校だより拡大版

初めての遠泳  
泳いだあとの氷砂糖  
キャンプファイヤーの  
炎に照らされ  
カラダもココロも  
汗をかいたね  
チャーム2泊3日  
小5の旅



📺 キャンプファイヤー



バンコク日本人学校  
小学部5学年主任  
溝越由仁

『1心 One For All, All For One. みんなの心が一つになっ  
たとき……最高の感動が生まれる!』  
この言葉は、バンコク日本人学校5年  
部の一大イベントであるチャーム臨海  
学校しおりの表紙に書かれたスローガ  
ンです。10クラス、児童数287名で  
新年度を迎えた5年生は、わずか1か  
月後にこれまでに味わったことのない  
大きな感動と自分たちの成長を実感す  
る「チャーム臨海学校」を大成功させ  
ることができました。このクルンテー  
プの誌面にある、子どもたちの笑顔や  
活動に取り組む真剣な眼差しは、間近  
で見守ってくださった保護者の皆様  
に、どのように映ったでしょうか。

新学期、高学年の仲間入りをした  
期待と不安を胸に、5年生の学校生活  
がスタートしました。すぐに臨海学校  
に向けての準備や行事の練習が始ま  
り、それぞれの役割である臨海学校の  
係活動に、真剣かつ積極的に取り組む  
児童の姿がありました。そこから、臨



▶ 500m遠泳



臨海学校の最初の活動である「**オリエンテーリング**」は、グループの友達と一緒に自然豊かな広い敷地内を歩き、それぞれの場所に隠されている問題を解いたり課題に挑戦したりする活動です。バンコクとは一味違う自然の中を友

海学校に懸ける意気込みや心構えが伝わってきました。500m遠泳に向けての練習は毎日のように続き、体力的にも疲れが見える時期もありましたが、日に日に褐色に焼けていく子どもたちの表情からたくましさ、頼もしさを感じました。

そして5月24日、ついにチャアム臨海学校本番の日を迎えました。「せーのっ、チャッチャッ・チャッチャッ・チャッチャッ・チャアム！ チャッチャッ・チャッチャッ・チャッチャッ・チャッチャッ・スツョー（最高）！」これまで何度も繰り返し返してきた拍手と掛け声が駐車場に響き渡り、「5年生みんな臨海学校を大成功させるぞ。」という強い思いで心が一つになりました。これまで支えてくださったたくさんの方に先生に見送られ、笑顔で学校を出発しました。バスの中では、元気な歌声やクイズなどレクリエーションで盛り上がり、クラスとしてのまとまりも育っていることを感じました。

2日目の午前中は、いよいよ「**500m遠泳**」です。横から押し寄せるチャアムの波は一見穏やかそうに見えましたが、5年生の子どもたちにとっては脅威となっていました。その波に不安を感じながら、「バディの友達と最後まで泳ぎきるぞ。」という強い決意

達と笑顔で歩く様子は、開放感に溢れ、とても楽しそうでした。友達と知恵を絞って答えを導き出す問題もあれば、いつもお世話になっているタイの用務員さんや水泳コーチの皆さんと一緒に「人間知恵の輪」にチャレンジする課題もあり、笑顔一杯で楽しく活動に取り組みました。

1日目の夜は、「**ナイトウォーク**」です。暗闇の中、オリエンテプの友達と歩きました。5年部の先生が子どもたちを驚かすために物陰に隠れて待っていることは、子どもたちも分かっていたようです。それでも、大きな悲鳴を上げて逃げ惑う子や心の中のどきどきを必死に隠してクールに振舞う子など、それぞれがチャアムの夜を存分に楽しみました。このハラハラドキドキのひとときも、一人では味わえない、子どもたちの大人気の行事になりました。



砂の芸術祭

をもって、海へと入っていきま  
た。その子どもたちの姿からは、  
これまでこの日のために水泳の練  
習を一生懸命頑張り、努力して得  
ることのできた自信を感じまし  
た。また、常にバディで声を掛け  
合う姿からは、同じ困難を乗り越  
えてきた仲間への思いや優しさが  
伝わってきました。長い長い50  
0mを泳ぎきり、力一杯最後のひ  
と掻きをしてゴールした子どもた  
ちは、大きな達成感、満足感に満  
ち溢れていました。全力を尽くし  
た後に味わった氷砂糖やブルーハ  
ワイ、昼食の味は、これまで食べ  
たことのない、格別なものとなっ  
たでしょう。

午後の「**絵手紙コンテスト**」で  
は、鳥の鳴き声や時折吹き抜ける  
爽やかな風の音を聴きながら、子  
供たち一人一人が思い思いに小さ  
なキャンバスに鉛筆を走らせてい  
ました。チャアムの自然にじっく  
り向き合って風景を描く子もいれ  
ば、臨海学校での活動を思い出し  
て絵に表す子や自由な発想で今の  
気持ちを俳句に表す子もいて、ど  
の作品も世界に一つだけの素敵な  
絵手紙になりました。

そして夜が更け、いよいよ「**キ  
ャンプファイヤー**」の時間になり  
ました。火の神から「**勇氣・絆・**

友情・希望・愛情」の火を受け取  
り、会場となったレイクサイドパ  
ビリオンに五つの炎が灯り、その  
幻想的な空間に子どもたちは惹き  
込まれていきました。子どもたち  
は、気持ちを解放して声が枯れる  
ほど歌い、汗びっしょりになるく  
らい飛び跳ねて踊り狂いました。  
仲間と炎を眺めながら歌った曲、  
ゆずの『**栄光の架橋**』は、感動の  
あまり涙を流す子もいました。そ  
の姿は、チャアム最後の夜が子ど  
もたちの心に最高の思い出となっ  
て刻まれた瞬間でした。裏では、  
音響や照明、衣装、花火、キャン  
ドルロードなど、キャンプファ  
イヤーを 様々な演出が工夫され  
ていましたが、その全てが一体と  
なって、子どもたちの最高の夜を  
作り上げていました。

最終日の3日目は、「**砂の芸術  
祭**」が行われました。事前に各ク  
ラスでどんなものを作るか知恵を  
絞り、構想を練っていました。ホ  
テル前のビーチは朝から灼熱の太  
陽が照りつけていましたが、子ど  
もたちは暑さに負けず作品作り  
に熱中し、休憩時間にはチャアムの  
海でゆっくり体を冷やして海水浴  
も楽しみました。1時間後、象や  
亀、マンゴスチンなど、5年生の  
子どもらしい発想でクラスみんな  
の思いが詰まった作品が完成しま



▶ オリエンテーリング



▶ 絵手紙コンテスト



子どもたちの心の中に刻まれた臨海学校の思い出は、こうしたプログラムの活動だけではなく、3日間友達と過ごした部屋での生活や食事でのひとときも、忘れられない思い出になりました。担任の先生と一緒にゲームをしたり、おしゃべりをしたり、褒められたり、時には叱られたりしたこと、子どもたちの心の中に大切な思い出になって刻まれていると思います。子どもたちにとって、この3日間の全ての時間がかけがえのない大切な宝物になりました。今年のチャーム臨海学校は雨季に入る直前ということもあり天候

が心配されましたが、一度もプログラムを変更することなく、すばらしい天候に恵まれた3日間でした。残念ながら止むを得ない事情で参加できない児童もいましたが、みんなで作り上げたチャーム臨海学校となりました。3日間のホテルの生活でも大きなけがや病気もなく、全てのプログラムを行うことができました。温かい気持ちに包まれた3日間でした。

チャーム臨海学校を終えて

5年1組 齋藤好乃花

私がチャーム臨海学校で学んだことは、みんなの前で大きな声を出せるようになったことです。私は食事係で、2日目の夜の食事のときに、料理を取る順番をみんなに伝えて誘導しました。ステージの上に立ったときは、みんなが私の方を見ていて、とても緊張しました。でも、私が話し始めると、私が言ったことで、みんなが動いてくれたので、うれしかったです。学年みんなの前で大きな声を出すことは、難しいと思っていたけれど、やってみると楽しかったです。これからも、いろいろなことに挑戦したいです。チャーム臨海学校は、本当に楽しい3日間でした。

5年3組 井上琴葉

チャーム臨海学校では、たくさん  
の思い出ができました。1日目は「ナイトウォーク」です。一番怖かったのは、山崎先生です。なぜかと言うと、急に出てきて声  
がとて怖かったからです。3日  
目には「砂の芸術祭」がありました。  
みんなで力を合わせて、学年  
目標の「一心」ができたと思いま  
す。でも、3日間を振り返って、  
一番心に残っているイベントは、や  
っぱりメインの「500m遠泳」  
です。なぜかと言うと、1回も足  
を着かずに、500mを泳ぐこと  
ができたからというのと、今まで  
練習してきた成果がとてあつた  
からです。チャーム臨海学校は、  
私の心に一生思い出として残ると  
思います。とても良い経験になり  
ました。

5年8組 田原まりか

私はチャーム臨海学校で、クラス  
の絆を深めることができました。  
チャームでは、いろいろな気持ち  
になりました。うれしい、楽しい、  
疲れた、などいろいろです。でも  
一番は、「感謝」の気持ちを感じ  
ました。タイのスタッフの方、ホ  
テルの方、水泳コーチ、先生、友  
達。いろいろな人への感謝の気持

ちでいっぱいになりました。チャ  
ームに行くことができたのも、いろ  
いろな人のおかげだと思います。  
このチャーム臨海学校を通して、  
感謝の気持ちを伝えることの大切  
さを知ることができたので、これ  
からも伝えていきたいです。

5年10組 柴田佳歩

私にとってチャーム臨海学校  
は、最高の思い出になりました。  
その理由を紹介します。一つ目は、  
みんなで力を合わせて協力できた  
ことです。特に500m遠泳では、  
声を掛け合ったり、つらいときは  
ピート板を譲り合ったりして、み  
んなで完泳できました。二つ目  
は、3日間の全ての行事が大成功  
したことです。タイのスタッフさ  
んのお手伝いや天気にも恵まれ、  
とても良い思い出になりました。  
私が一番楽しかった行事は、キャ  
ンプファイヤーです。火の神様が  
くれた、「勇氣・絆・友情・希望  
・愛情」の五つの炎をいつまでも  
心の中に灯していきたいです。

バンコク日本人学校の子どもた  
ちは、日本をはじめとする世界の  
様々な場所で生まれ、多感な幼年  
期・少年期を異国の地であるタイ  
・バンコクで過ごしています。そ  
の経験は、大人が過ごす時間以上  
に、1日1日、1秒1秒がこれか  
らの自分の長い人生にも大きく影

響するかけがえのない時間です。

さらに、親元を離れ、同じ年頃の  
仲間と同じ時間を過ごす2泊3日  
の宿泊行事は、大げさではなく、  
子どもたちにとって一生の思い出  
として心に大きく深く刻まれる歴  
史になることでしよう。子どもた  
ち自身が、その価値の大きさを自  
覚するのはまだまだ先のことで  
が、今回のチャーム臨海学校での  
経験を次の人生の歩みとして生か  
してくれることを願ってやみませ  
ん。そして、5年生の子どもたち  
は今回チャーム臨海学校での素晴  
らしい経験を経て、心も体も大き  
く成長しました。周りの状況や先  
のことを見通す計画性、自分で考  
えて行動する力、日本人としての  
立ち振る舞いの自覚、自分の行動  
を律する力、仲間と励まし合っ  
て一緒に困難を乗り越えるたくま  
しさなど、子どもたち自身も多く  
の成長を感じ、自信を得たはずで  
す。これからの長い人生の中で、  
大きな壁にぶつかり勇氣が必要に  
なった時には、ふとチャーム臨海  
学校での日々を思い出し、新たな  
力や勇氣が湧き上がってくると確  
信しています。それほど、この3  
日間は子どもたちにとって大きな  
力になりました。

チャーム臨海学校を実施するに  
あたっては、我々5年部の児童・  
教職員、バンコク日本人学校の全

スタッフが力を合わせ、綿密に計  
画を立てて様々な準備を重ねてき  
ました。それは、今回のチャーム  
臨海学校の大成功の要因の一つで  
す。しかし、その裏には、見えな  
いところで多くの支えがあつたこ  
とを忘れてはいけません。子どもた  
ちの健康に気を配り、一緒に準備  
をしてくださった保護者の皆様、  
仕事以上の関わりで臨機応変に対  
応し力を貸してくださった旅行会  
社HISやホテルのスタッフの方  
々には、感謝の気持ちで一杯です。  
子どもたちの安全と健やかな成  
長を願い、チャーム臨海学校の成  
功のために力を貸してください  
全ての方々のおかげで、子どもた  
ちは最後まで心から楽しんで学ぶ  
ことができました。「一心」は今年  
度の5年部のスローガンであり、  
チャーム臨海学校のスローガンで  
あり、児童、教職員、保護者の皆  
様、臨海学校に関わってください  
た全ての人のスローガンでした。  
この一心の想いが、チャーム臨海  
学校の大成功へと導いてくれたと  
感じています。

最後になりましたが、疲れ果てた  
体で、そして大きな達成感や充実  
感で帰校した子どもたちを温かく  
迎えてくださった保護者の皆様、こ  
れまでの御理解や御協力とあわせ  
まして、心より感謝いたします。  
本当にありがとうございます。

連載 ⑨⑥  
バンコクの  
日本人

## バンコクの日本人、 戦前の日本人会歴代会長

早稲田大学アジア太平洋研究科教授  
村嶋 英治  
(E-mail: murashim@waseda.jp)

本誌7月号に掲載した、「本会成立以来歴代会長」(1932年6月発行の暹羅国日本人会会報復活第1号、99頁)のリストにより、1913年の創立以来1932年までの暹羅国日本人会の歴代会長、12名が明らかになった。本号では、この12名に加え、1945年までの合計23名の会長の氏名(敬称略)、略歴、在職時期、その他の役員氏名などを一覧表にしてみた。

なお、確かな資料が存在する1920年代半ば以後の事例から見て、それ以前においても会長は年度初めの4月に選出され、その任期は1年であったはずであるが、1913年から25年までは会長就任年月日が判明する資料を欠いているため、この間の在職時期は推定した。また、会長の生年の次に出身地を記し、没年が判明する場合のみ没年を記した。卒業者の多い、東京高商とは東京高等商業学校(現一橋大学)、神戸高商とは神戸高等商業学校(現神戸大学)

である。三井物産社員のタイでの在職期間は、職員録(三井文庫所蔵)に拠っている。役員名は判明する限り記載し、不明の場合は空欄となっている。さて、何人かの日本人会会長のプロフィールを見てみよう。

### 初代日本人会会長小牧太次郎 (1877-1931)

初代暹羅国日本人会会長は、医師の三谷足平であるという誤解が戦後に生じたが、日本人会の初代会長は、正しくは三井物産の小牧太次郎である。日本人会の前身は、三井物産と川崎造船の大口寄付で1906年に生まれた日本人倶楽部。日本人倶楽部の初代会長は、三井物産の檀野礼助、2代目会長はシヤム政府の法律顧問政尾藤吉である。政尾は1913年8月末に帰国した。政尾藤吉の伝記として、筆者は、泰国日本人会百年史で、香川孝三著『政尾藤吉伝』(信山社出版、2002年)を

賞賛したが、その後同書が引用している日英両語の資料をオリジナルと照合したところ、極めて杜撰な著作であることを知った。ここに賞賛の言を撤回しておく。

さて、筆者の推測が正しければ、帰国する政尾の後任会長選出を一因として、日本人倶楽部は1913年9月に日本人会に改編されたのである。日本人会初代会長には小牧が選出された。

小牧太次郎は、鹿児島県出身で1899年に東京高商の本科を卒業し三井物産合名会社に就職し、間もなくロンドン支店勤務となった(『東京高等商業学校一覽』(従明治37年至明治38年)(1904年12月20日発行、136頁)。当時の高商は、本科の上に2年間の専攻部あり、専攻部を卒業すれば商学士の学位を得ることができた。

葛生能久『東亜先覚志士記伝下巻』(黒龍会出版部、1936年発行、566-567頁)

は小牧を、次のように志士の一人として取り上げている。

小牧太次郎(小野田セメント社員、鮮)、明治十年二月十七日鹿児島県薩摩郡平佐村白和に生れ、同三十二年東京高等商業学校「本科」を卒へ、直に三井物産会社に入り、孟買、倫敦、晚香坡、盤谷等の支店又は出張所に派遣されて手腕を揮ひ、大正四年本店勤務となつたが、翌年辞して小野田セメント会社に入り、同七年平壤支社の支配人となつた。この当時より内鮮融和に就て細心の注意を払ひ、単に同社工場内のみならず、進んで附近の鮮人部落の有力者に接近し、屢々会談して彼等部落民との融和に努め、勝湖里学校組合管理者として内地人子弟の教育に尽瘁する一方、鮮人子弟を收容する普通学校組合の設置に尽力し、此等子弟の就職斡旋の勞を執る等融和事業の爲めに大に貢献した。昭和三年新に仁川府外川内里に同社の支店が設置せらるるや之が支配人をも兼ね、將に内容充実して外に発展せんとする際偶々病に罹り、昭和六年五月二十八日別府に於て没した。年五十五。東



	歴代日本人会会長名、経歴等	会長在任時期 (推定を含む)	日本人役員名	会長在職日が判明する 同時代資料
初代	小牧太次郎 1877年鹿児島～1931, 東京高商本科1899年卒, 三井物産盤谷出張員在職1911年9月18日～1915年7月23日			
2代	三谷足平 1860年弘前～1924年7月3日, 1881年医術開業試験に合格し三等軍医に, 1894年から在タイ, 「日本医院」経営	推定1914(又は15)年4月～1916年4月		
3代	新家 亮 1883年, 三井物産盤谷出張員在職1915年7月23日～1917年2月12日	推定1916年4月～1917年2月		
4代	加藤尚三 1887年名古屋, 市立名古屋商業学校1903年卒, 三井物産盤谷出張員在職1917年2月12日～1919年10月1日	推定1917年2月～1918(又は19年)4月		
5代	土居 節 大阪生, 東京高商中退, 1900年2月三井物産支那修業生, 1910年三井物産退職, 大澤商会バンコク主任	推定1918(又は1919)年4月～1919年中途		1919年4月24日 『椰子の葉巻: 林博君遺文集』 1925年, 209頁
6代	水野泰四郎 1878年福島, 台湾協会学校[現拓殖大]1903年卒, 台湾銀行盤谷出張所 (1919年3月5日新設)	推定1919年中途～1921年4月	山本雅一, 山口萬吉, 木下 亨, 神谷信男, R Miyagi, 朝野三之助, 大藤二雄大谷清一, 江尻武司, 宮川岩二(The Siam Directory 1921)	1920年6月19日 (タイ国立公文書館 no. 6. 5/20)
7代	平佐 幹 1890年山口, 神戸高商1914年卒, 台湾銀行盤谷出張所(のち野村銀行に転職)	推定1921年4月～1923年4月		1921年8月3日(南洋日日新聞1921年8月10日号) 1922年1月3日(Bangkok Times 3 Jan. 1922) 1922年11月13日『暹羅之事情』
8代	山本雅一 1888年兵庫, 神戸高商1912年卒[?], 三井物産盤谷出張員首席在職1919年10月1日～1924年6月14日(のち山本商会設立)	推定1923年4月～1924年4月		
9代	江畑弥吉 1887年滋賀～1952, 江畑洋行	推定1924年4月～1925年4月	塩田 厚, 朝野宗統, 大谷清一, 三木 栄, 波多野章三, 吉岡幸造, 水塚喜三郎, 遊藤 清, S. Izumi, 竹内佐十郎(The Siam Directory 1925)	
10代	植木房太郎 1888年東京～1941, 東京高商本科1911年卒, 三井物産盤谷出張員首席・同出張所長在職1924年6月14日～1932年8月4日	推定1925年4月～1929年4月	江尻武司, 吉岡幸造, 大谷清一, 宮川岩二, 山口萬吉, 河井為海, 加藤寿人, 遊藤 清(Bangkok Times, 1 March 1926)	1926年2月27日 国王即位日本人会祝賀
11代	河井為海 1895年茨城, 東北大学医学専門部1917年卒, 1922年12月6日より盤谷府日本医院医師, 1933年2月まで在タイ, のち台湾で開業	1929年4月～1932年4月13日		
12代	大谷清一 1884年米子～1969, 大谷洋行 (1911年6月～1934年8月在タイ)	1932年4月13日～34年4月15日	幹事: 日高秋雄, 田中健四, 有延一, 江尻武司, 宮川岩二, 鈴木宇治, 植木房太郎(後任新野宗統), 金沢武三, 塩田 厚, 宮川岩二(会報1号78, 81頁) 1933年4月15日幹事田中(後任遊藤宗統), 有延, 鈴木, 宮川岩二, 藤井又一, 朝野, 日高, 橋元秀, 宮川久治, 前田 清 1933年8月26日会員投票により理事7名選出, 宮川岩二(後任前田), 鈴木, 有延, 日高, 藤井, 新野, 磯部(会報4号61頁)	会報1号76頁 会報5号89頁
13代	小川蔵太 1895年名古屋～1978, 愛知医専[現名大医学部]1919年卒, 医師(1956年からウィエンチャンで博愛病院長)	1934年4月15日～1936年4月11日	理事: 磯部, 日高, 鈴木, 秋山芳太郎, 新野, 有延, 松尾忠彦(会報5号90頁)	会報5号89頁 会報8号81頁
14代	鈴木宇治 1897年徳島～1979, Borneo Co. 燐寸工場(シヤムマツチ) 副工場長, 在タイ1930～1937年8月	1936年4月11日～1937年4月18日	前会長: 日高秋雄 理事: 磯部, 新田義實, 大谷長三, 新野, 岡崎竹次郎, 三木 栄, 宇田川健雄, 太田一, 武原芳郎(会報8号81頁)	会報8号81頁 会報8号95頁
15代	三原新三 1886年東京, 東大農科1910年卒, シヤム農業省棉花専門家 (1935年10月から3年間)	1937年4月18日～1938年4月5日	理事長 新田義實 理事: 三木, 新野, 林原竹夫, 岡崎, 太田(会報9号36頁) 青木真(同48頁)武原, 大谷(同32頁)網井久四郎(同56頁)	会報9号36頁 会報10号162頁
16代	難波勝二 1891年東京, 京大法1915年卒, 1937年3月～1938年12月横浜正金銀行出張所長(戦後は東洋大学教授)	1938年4月5日～5月2日	理事長: 日高秋雄 理事: 網井, 中西久次郎, 大西徳信, 松尾, 大谷(後任古谷重次)(会報10号162-163, 166頁)	会報10号162, 165頁
17代	三木 栄 1884年前橋～1966, 東京美術学校漆工科1910年卒, シヤム文部省Fine Arts School教師	1938年5月2日～1939年4月5日	同上	会報10号165頁
18代	高月喜右衛門 1886年三重生, 大阪高工[現阪大工学部]船用機械科1908年卒, 三井物産支店長	1939年4月5日～6月26日	理事長: 日高秋雄 理事: 久保三雄, 中西, 藤大雄, 泰山連水, 松尾(会報11号150頁)	会報11号150, 151頁
19代	竹田真昌 1893年三重生, 東大法1920年卒, 大阪商船駐在員事務所長 (1935年10月来タイ)	1939年6月26日～8月26日		会報11号151, 152頁
20代	日高秋雄 1905年徳島～1979, 徳島商業学校卒, 1928年来タイ, 日高洋行	1939年8月26日～1940年4月11日	理事長: 松尾忠彦 理事: 波達孝平, 土屋, 武原, 藤大雄, 川邊真澄(会報11号152頁)	会報11号152, 154頁
21代	谷 清訓 1894年三重, 東京高商1919年卒, 三菱商事支店長(戦後三菱商事常務)	1940年4月11日～1941年4月	理事長: 大谷長三 理事: 武原, 藤大雄, 波達, 泰山(後任東野吉之助), 松尾(会報11号155頁)	会報11号154頁
22代	江尻賢美 1880年富山～1965, 1906年三谷医院事務員として来タイ, 医師	1941年4月～1943年4月9日	理事長: 大谷長三 理事: 保田英一, 池田正二, 泉碩嘉吉(1942年7月20日現在)	泰国日本人会百年史 34頁 新田義實(泰国商工会議所会頭)日記 1942年4月8日
23代	森 廣三郎 1893年京都～1973, 神戸高商1917年卒, 三井物産支店長(戦後東洋レーヨン社長)	1943年4月9日～1945年	理事長: 大谷長三(44年4月からは保田英一が理事長)(泰国日本人会百年史34頁)	泰国日本人会百年史 34頁 新田義實日記 1943年4月9日

京多摩墓地に葬った。(遺族、東京市中野区道玄町八、小牧ヨネ)

小牧は、1916年小野田セメントに入り、1917年に同社平壤支社が開設されるや初代支配人となり、1931年に病死するまで平壤に勤務した。彼は、社会事業にも熱心であった。

小牧は殖民地朝鮮におけるセメント生産の最初から関わり、10数年間で朝鮮におけるセメントの自給を達成するという功績を挙げた。小牧は、1927年に平壤支社支配人のまま、小野田セメントの取締役に就任している。支社工場支配人が役員に名を連ねた最初の事例である(財団法人日本経営史研究所編『小野田セメント百年史』、1981年、322頁)。

1930年7月に発行された工政会『工政』第127号、7頁に、小野田セメント製造株式会社取締役の肩書きで小牧は、「朝鮮におけるセメント、需給と事業の現状及将来」と題した小論を載せ、その中で、次のように書いている。朝鮮におけるセメント需要は従来極めて

限られており輸入に頼っていたが、殖民地化後1916〜7年頃より、官私鉄道建設、水力電気事業、道路橋梁、水利等の諸インフラ建設が活発化し、セメントの需要が急増した。これを受けて、小野田セメントは朝鮮におけるセメント生産の開祖として1917年5月に平壤支社工場の建設に着手し、1919年末に稼働させた。平壤支社工場は朝鮮全域にセメントを供給するには地理的に偏った立地であったので、全域に便利に供給可能なように1928年末に川内支社工場を完成させ朝鮮におけるセメントの自給自足を実現した、と。小牧曰く、今や朝鮮の需要に対して供給の準備は全く成れぬが如き状態にあるのである。僅々十年余り以前に於ては、其總需要を鮮外産品に仰がねばならなかつた半島のセメント界は、今や全く自給自足の境域に達し得たのみならず、尚進んで母国其他海外に対して其余剰を供給せんとする迄に進んで来たという事は、吾人の私かに快とする所である、と。更に、彼は民生向上の観点から、冬の寒さが強烈な朝鮮で、安価なセメントを供給し防寒住宅の建設を進めるべきことを述べている。

第2代目会長三谷足平について

ては、本誌に随分書いて来た。幾らか追加すれば、三谷は「日本医院」(Nippon Inn)を経営したが、この医院に事務員として1906年に就職した江尻武司(賢美)は、いつの間にかタコの医師となり、第22代日本人会会長ともなった。本誌6月号で江尻ファミリーを紹介しているが、江尻は1935年頃女医の神谷りう(1895-1980)と再婚した。神谷りうは、現在の豊川市(愛知県)の農家の三女に生まれ、小学校の裁縫の専科正教員の免許を持っていたが、20才の夏結婚問題がもたらがりましたが、いっそ結婚にかかる費用1,000円ぐらゐを学資に代えて勉強し、何らかの技術を身につけたい、また東京へも行きたいと思(江尻りう「あの頃のこと」、『日本医師会雑誌』第65巻1号、1971年1月、88頁)、上京し、独学で専検に合格されて東京の高女四年生に編入、卒業後東京女子医専「現東京女子医科大学」(産婦人科)に進学された。同校卒業後さらに東京帝大医局に勤めて研究を積まれた。大正十二年母校東京女子医専「吉岡弥生校長」の推薦により、シヤム国の首都バンコクに派遣され、三十四年にわたる御活躍後に帰国されて東京京橋にて開業なされた。そして

昭和八年再びタイに行かれ(笹野正雄編『徹底推譲の報徳人 江尻りう女史』、社団法人愛知報徳会、1982年、14-15頁)た、という女傑である。戦後、江尻りうは、故郷の豊川に夫の賢美を連れて引き揚げ開業した。彼女は、報徳会に参加し、質素な生活をしながら蓄えた多額の金銭を惜しげも無く公益事業に寄付した。1980年6月に、84歳で植林ボランティアとして来タイし、帰国後体調を崩して死亡した(愛知新聞1982年9月23日)。

三谷の日本医院に1922年末から勤務し、1924年7月の三谷死亡後、日本医院を継いだ河井為海は、第11代目の日本人会会長である。河井時代の日本医院の広告には、Dr. T. KAWAI, M.D. とともに、Veterinary Surgeon (獣医) H. Mitani (三谷日生) の名も載せられている。三谷日生(1896-1971)は、二男一女をもうけた三谷足平・ヨネ夫妻の長男で、1922年に東京獣医学学校を卒業した。日生は、1926年6月の盤谷日本尋常小学校の開校時に暹羅語専科嘱託をしたり、1930年代には日本武官室の通訳をしたりした。



彼は戦後タイ残留が許可された数少ない日本人である。足平の二男、勲(いさお)は早世したので、足平・ヨネの血筋で今日まで続いているのは、長女文江(東洋英和卒、関三郎と結婚)の子孫のみである。文江の長女である作間澄子(昭和3年生)さんを、筆者は本年3月28日に訪ねたが、彼女の話では、都立多磨霊園にあった足平・ヨネの墓は、管理費滞納のために、撤去されてしまったという。

第3代、第4代目会長の新家亮、加藤尚三は、ともに三井物産社員であるが、経歴は殆ど判らない。個人情報保護がうるさく言われるようになる以前に、三井物産の人事部門に、元社員の何人かの経歴を問い合わせたところ、丁寧に教えて頂いた経験があるが、今日では無理であろう。是非、会員である三井物産の方に調べて欲しいものである。

### 第5代目会長 土居節

第5代目の土居節は、三井物

産から京都の大沢商会に転じた人である。

京都で侠客の子に生まれ、ゼロから出発して電気事業、時計製造、貿易商社などで大をなした明治大正期の実業家で京都財界の重鎮であった大沢善助(1854-1934)が創立した大沢商会は、バンコクに、1915年7月から1920年11月まで5年余支店を置いたことがある(大沢善助『回顧七十五年』1929年、及び大沢商会社史編纂委員会編『創業100年史』大沢商会)1990年、275頁)。土居節は東京高商在学中の1900年2月に三井物産支那修業生(1899年1月に創設、この支那修業生には、森恪、高木陸郎などもいる)に採用され、広東に派遣され、言語、商取引の慣習などを3年の年限で学んだのち、三井物産広東出張所に勤務した。

1907年6月に東京高商本科2年在学中の守田藤之助(1886-1969)は、中国を旅行し、広州沙面で三井物産出張所長の先輩土居節を訪ねた。「土居氏は明治35年の高商出身で特に支那問題に没頭せられ、支那婦人を正夫人として」(守田藤之助「中国三代に生きる、

第一篇清朝時代(二)」、『東亜時論』1966年10月号、46頁)いた。守田がこの回想記を書くに際し、旧三井物産会社別室、如水会、滬友会などの協力を得て調べた土居節の経歴は、「大阪府人、明治35年東高商中途退学、三井物産入社、43年3月上

海支店勤務中退社、大正14年頃広東沙面英租界広東実業公司自営(同上論文、48頁)というものであった。しかし、守田の調査では、土居の大沢商会時代の経歴が落ちていた。在バンコク領事の本省への報告によれば、土居節は、1917年12月末も、翌18年12月末も大沢商会のバンコク支店主任である。同バンコク支店の1918年の取引売買額は185万バーツ、従業員は日本人6、現地人4である。一方、加藤尚三下のバンコク三井物産の取引売買額は903万8千バーツ、従業員は日本人7、現地人23であった(外務省記録3.3.725「農工商漁業等に従事する在外本邦人の営業状態取調一件」)。

1919年4月24日にワット・サケートで生まれた、医師林傳(はやし・つたえ、ボルネオ会社のシーラーチャー材木会社附属病院勤務、慈恵医専の同

窓である磯部美知の紹介で、1917年2月に来タイ、腸チフスで死亡、満32歳の葬儀に、土居節は日本人会会長として参列した(『椰子の葉蔭』林傳君遺文集、1925年、209頁)。しかし、その後1919年6月には大沢商会を辞し、新しい就職口を求めて広東に向かった。広東では、旧知の渋谷剛の斡旋で、中華新報(社長容伯廷、日本の広東総領事が新聞操縦の対象として資金援助中)から1000元、渋谷剛から1000元、毎月合計2000元の報酬を得ている(外務省記録3.3.739「新聞雑誌操縦関係雑纂」)。土居は、1944年当時は60歳代後半になっていたと思われるが、広東の日本人社会で「老広東」として知られ、広東の生き字引的存在として、広東総領事が日本人訪問客(1944年5月の作家大鹿卓など)を迎えた際の食事会などに招待されている(大鹿卓『梅花一両枝』洗心書林、1948年、75頁)。

第6代の水野泰四郎、第7代の平佐幹は、1919年3月5日にバンコクに開設された台湾銀行出張所員である。

水野泰四郎(福島出身)は東

京茗荷谷に1900年に創立された台湾協会学校(拓殖大学の前身)に1期生として入学し、1903年7月11日の第1回卒業式で卒業した45人中の一人である(『台湾協会学校第一回卒業式』、『台湾協会会報』第58号、1903年7月20日、47頁)。水野は台湾銀行に就職し、バンコクに赴任する前の1918年は、汕頭勤務で、汕頭日本人協会(1915年より同地日本人学校及び台湾籍民子弟向けの汕頭東瀛学校(台湾総督府が援助)を経営)の会長を務めていた(『外務省記録』3.10.2/10-26「在外本邦学校関係雑件 汕頭東瀛学校 附汕頭日本学校」。1955年の『人事興信録 第18版(下)』によれば、水野は「日興電機(株) 社長、日興電光(株) 取締役、日本通信機器協同組合理事長、有線通信工業会理事」である。

### 第9代目会長 江畑弥吉

日本に本社がある大手企業の社員(医師の三谷を除く)が歴代会長を占めてきた中において、第9代目の江畑弥吉は異色の人物である。江畑は滋賀県犬上郡磯田村大字八坂(はっさか)

「現彦根市八坂」の出身で、満16才の1904年2月16日に、清国安南暹羅を、商業見習の目的で旅行するために大阪府で旅券の下付を受けた。

視察後、一旦帰国し、1906年に弟の江畑弥惣吉とともに再度来タイし、「初め雜貨商を営みしが翻然志を改め今は農業にて成功しつつあり」(『東京朝日新聞』1909年7月23日)と報道されているように、1907年6月にランシットの国鉄の駅近く(当時はタンヤプリー県)に農地を借りて米作を開始した(タイ国立公文書館 <http://www.nia.go.th> 1/4.p.709)。1910年には、タンヤプリー知事は、江畑が日本から持ち込んだ犁を使用して田を鋤いていることを国王に報告した。国王が日本製犁とタイの犁の性能を比較させたところ、日本の犁は、タイの犁では鋤けない固い土を鋤くことができ、かつ深鋤、浅鋤の調節も便利にでき、鋤く土量も多く、田植をせず直蒔きのランシット辺りの耕地に適していることが判った(同 [www.nia.go.th](http://www.nia.go.th))。本誌2017年5月号に引用したように、1912年当時江畑は、2000ライの水田を100人の労働者を雇用して耕作してい

る。

来タイ直後の青年が、大規模な農業経営を行うには、日本国内に資金的基盤が必要である。江畑の家は、所謂近江商人で、大阪に何軒か質屋を有していた。江畑弥吉の兄である寅吉の孫、江畑弥八郎氏(前滋賀県会議員、寅次郎の子)に本年4月14日に電話してうかがったところでは、寅吉、弥吉兄弟の母である「ちの」は経営手腕があり、大阪で事業を展開したという。

弥吉のタイにおける事業は、母「ちの」が海外にまで事業を拡大しようとして二男の弥吉を送り出したことに始まると思われる。弥吉は母の期待に背かず、着実に事業を拡大させた。バンコクでも「プローム」、「ミカサ」という写真館を開き、更に写真機や写真材料の輸入販売も開始した。

プロームは弥吉のタイ人妻の名であり、彼女との間に朔弥(スリヤ)が1911年に誕生した。江畑家にとって運悪いことに、弥吉の兄の寅吉が、息子寅次郎(1915年生)をもうけて間もなく死亡した。弥吉が1918年12月に旅券取得のために書いた申請書の続柄欄は、従来の「寅吉弟」から「寅次郎叔父」

に変わっている。未亡人となった兄寅吉の妻(寅次郎の母)は、弥吉と再婚させられた。新しい父(弥吉)の住居に、母とともに移った時、寅次郎は5歳であつた。その時の悲しさは寅次郎の心に深い傷を残したようであつた。彼は東京商科大学(現一橋大学)学生時代に親友になつた小宮山量平に幾度となくその時の思いを吐露している。小宮山の自伝的大河小説『千曲川』には、寅次郎とその叔父で義理の父である弥吉のことが、随所に描かれている。

1939年時の江畑洋行(Y. Ebata & Co.)の本店はシンガポール、支店をバンコク、ペナン、シンガポールに有した。バンコク支店(本田寛次郎支店長)は、営業科目を、「輸出」チーク其他堅木、「輸入」セルロイド製品、化学製品、菓子、刃物類、電気器具、硝子製品、蓄音機、鉄器、帽子、メリヤス、皮革製品、写真材料、陶磁器、食料品、ゴム製品、運動具、文房具、一般雑貨、化粧品及石鹸、手拭、玩具」(『南洋経済研究所』『南洋関係会社要覧(昭和14年版)』43頁)と、同研究所の問合せに対して回答している。

戦後弥吉と息子の朔弥は、タ

イに戻ることを希望したが、タイ政府は許可しなかった。その背景が判る資料として、ウェブ上に拙稿『堀井龍司憲兵中佐手記・タイ国駐屯憲兵隊勤務（1942〜45年）の思い出』（早稲田大学リポジトリ）があるので、ご関心のある方は読んで頂きたい。

### 大谷清一・大谷長三父子

戦前日本人会の役員を親子二代に亘って務めたケースは、大谷清一・大谷長三（1901-1997）のみである。清一は、12代目会長、婿養子の長三は、1940年4月から4年間4代目理事長を務めた。

大谷清一が郷里の米子で事業に失敗して、同郷の大山の誘いでバンコクに渡航したのは1911年、満27歳の時である。清一は大山商店に就職した（清一の孫の大谷一之氏提供の資料に拠る）。この時期の大山商店は、宮川岩二（本誌2010年8月号等参照）と清一を中心に経営された。清一は、1926年に独立して大谷洋行（Otani & Co.）を創立した。清一の仕事振りは、『唐木の輸出については独特の知識と経験を有し、営業振り

が堅実なるを以て当国の唐木、本邦向け輸出は黄楊を除いては全然独占の親がある。仕向地は大阪六十%、東京四十%である」（『南洋時代第八号、今日の暹羅特輯号』1930年10月10日発行、166頁）と評されている。

1934年7月に清一夫妻はタイを引き揚げ、長三が来タイして跡を継いだ。長三は旧姓鳥居、1918年に京都市立商業実修学校専修科を首席で卒業し、大阪の貿易商川原商店に就職。直ちにシンガポール支店に派遣され4年間勤務した。1928年には出光商店に移り、唐木輸入の調査のためシヤムに出張した。多分、この機会に清一と面識ができたのであろう。32年に清一のむすめ香津子と結婚した。

長三は順調に大谷洋行を発展させた。コメ、ゴム、ステイツクラック、チーク、棉花、生ゴム、皮革その他をタイから輸出し、同時に神戸のキャンバスシューズメーカーの秋毎（あきまい）やライオン歯磨の総代理店も営んだ（Commercial Directory for Thailand B.E.2484の大谷洋行の広告）。

開戦前には多数の日本貿易業者がバンコクに進出したが、そ

の中にあつて大谷洋行は主要な一角を占めていたことは、次の評価からも判明する。

泰国に於ける日本人貿易業者は約五十社に上るも主なる商社は三井物産、三菱商事、三興、東洋棉花、大同貿易、江商株式、安宅商会、大谷洋行、大倉商事、野村商店、大南公司、又一株式、田村駒等である（『南方開発金庫調査部『戦前に於ける南方各地邦人企業概観（泰国）』1942年10月、24頁）。戦後の長三は、神戸の弘栄貿易に就職し、仕事上タイとの関係はなかった。

以上に紹介した日本人会会長以外についても経歴を調べたが、紙幅が尽きたので割愛する外ない。なお、泰国日本人会百年史は、誤って戦後の三井物産社長新関八洲太郎（にいぜき・やすたろう、1897-1978）が、1943〜44年の会長であったと記しているが、新関は1942年9月17日にバタバヤ支店長に転じている（新関暢一編『いたらぬ過去を顧みて…新関八洲太郎回想録』2000年、中央公論事業出版）ので会長就任は不可能である。この時期の会長は新関の後任の森廣三郎である。

敗戦により在タイ日本人は、

自由タイ政権により私財を含む全財産を接収された上、收容所に抑留され、日本に強制送還された。これによって、明治以来のバンコクの日本社会は壊滅した。（終）

※連載「バンコクの日本人」は第96回の本稿をもちまして終了となります。長い間、ご愛読いただきましてありがとうございます。ありがとうございました。

※本連載の著者・村嶋英治氏（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）の講演会「戦前のタイ国日本人会の史実に迫る」が8月31（金）10時〜11時半、日本人会本館で開催されます。ふるってご参加ください。詳細は32頁をご覧ください。



# メナム句会 二〇一八年六月句会

六月二日(土) 十五時半〜十八時

於・日本人会本館会議室

兼題 ▼五月雨 ▼青梅(梅の実) ▼蠅

／当季雑詠 (投句五句)

## ◆今月のエッセイと自選二句(順不同)

私は平成元年生まれ、現在二十八歳、最年少会員です。メナム句会のありがたいところは、五十、いや、六十ほど年の離れた人生の大先輩とも句作について忌憚なく意見を交わせる点です。仕事では誰しも先輩方の顔色をうかがってしまうものですが、私は月一回の句会が楽しみです。(真之介)

少年の眠りのごとき青梅かな 岩田真之介  
山いくつ叩ききつたる五月雨か

五月雨や猫の遠目に庭の池 浮田 恒夫

青梅や手のひら転がる小惑星

貞淑も不倫も秘めてレース編む 大口 堂遊

青梅やまたも十代「金」と「銀」

梅の実を挽ぎる手もとに青が散る 大口乃り子

青梅を映して空の蒼さかな

蝦夷桜染井吉野も去りにけり 嵯峨 春野

リラの花鮮やかに続く大通り

梅漬けを八百屋でがつてん若き主婦 堀井 京子  
ごろ寝して五月雨雲の低きかな

青梅の鈴なりの木々木漏れ日が 山川喜美代  
美味しさも半減するかな蠅の群れ

梅の実の手に届くまで太りけり 山本 良子  
透明のやに光りある実青梅

龍の息大きく吐きて雨季に入る イーブン美奈子  
手を添へて上る階さみだれす

## 句会仲間、募集中!

初心者も大歓迎です。

今や多くの国々でも愛されている俳句(HAIKU)。  
タイでの日常を五七五にして、皆で楽しんでみませんか?



## ◆句会予定

七月句会 七月七日(土) 十五時半〜

▼場所・日本人会本館会議室

▼兼題・涼し、岩魚(いわし)、バナナ

八月句会 八月十一日(土)、日本人会本館会議室

## ◆連絡先

幹事 山本良子

イーブン美奈子

yoshiken@truemail.co.th

〇九〇一九七〇一一二五六

minakobar@gmail.com

古のインドからタイにも日本にも伝播したガネーシヤの好物

# カノム・トム・カーオ

細く削ったココナッツを椰子糖で煮つめた餡を、もち米粉の生地包んだ白玉がカノム・トム・カーオ(白)。餡を白玉にからめたものがカノム・トム・デー(赤)で、椰子糖で赤茶色になった餡の色からの命名でしょう。写真のカノム・トム・カーオは花や葉で染めています。基本は着色していない白です。この餅菓子はスコタイ時代の1374年に

リタイ王が書いたとされる『三界経』に登場しているというのですから古参の雄。コクと深みのある椰子糖ココナッツ餡が、むっちりした歯ごたえの白玉と口中で混じり合うと、何世紀にもわたり愛されてきた菓子の力が伝わってくるような気がします。さらに来歴をひもとけば、モータカと呼ばれるインドのお菓子が起源という。米粉や小麦粉

を練った生地、ココナッツ、黒糖、香辛料などで作った餡を包み、先がとがった玉状(宝珠型)にして、蒸したり揚げたりしたお菓子で、当地では専用の型もあるのだとか。ひだをとって小籠包のように整えたタイプもあります。この菓子がタイに伝わり、ローカライズされ椰子糖ココナッツ餡入りの白玉に。遥かなる時の流れがカタチをなしたお菓子なのです。



バンコクのインド菓子店のモータカ



カノム・トム・カーオ。紫はバタフライピーの花びら、緑はパングンの葉の汁で着色している

連載46  
タイのお菓子は  
二度おいしい

モータカはヒンドウ教の神ガネーシヤの好物と知り、シーロム通りのヒンドウ寺院のそばのインド菓子店へ行ってみると、ありました！写真(下)以外にも白や深紅の宝珠型もあり、どちらも牛乳を煮つめた菓子でフリンギはなし。多種多様なのか、タイのインド社会で変化していったのか。ところどころで清浄歓喜団という和菓子をご存知でしょうか。「奈良時代、遣唐使が仏教と共に日本へ持ち込んだ唐菓子」の一つで「千年の歴史」を有し、「7種類のお香を練り込んだ「こし餡」を、米粉と小麦粉で作った生地だ金袋型に包み、胡麻油で揚げると、創業400年の京の老舗・亀屋清永は説明しています。「密教のお供えもの」で、ガネーシヤを起源とする仏教の守護神・歓喜天への供物なのです。

タイではカノム・トム・カーオとして今日も一般的なお菓子であるモータカ。一方日本へは中国を経て「唐菓子」としてたどり着き、神饌菓子としてあり続けている。一つのお菓子をめぐる二つの千年の道。空想の旅の扉が開かれ、さらに味わい深い白玉です。

# 虹の学校の挑戦



虹の学校校長 片岡朋子  
建築家 片岡鉄男

はじめまして、虹の学校校長の片岡朋子です。

虹の学校はカンチャナブリ県にある児童養護施設兼学校で、モン族やカレン族の子どもたち（未就学児童、孤児、貧困家庭）を受け入れています。運営は日本のNPO法人虹の種（代表・玉城秀大）。

「虹色の架け橋で美しい地球を未来につなぐ」ことをミッションに掲げ、33名の子どもたちと教育・生活を共にしています。

2008年から活動を開始、2013年にはタイ政府公認の学習センターとして登録されました。6年間の学習を終えた子どもたちは小学校課程を修了することができ、修了後も虹の学校は生活、学業面、ID（身分証明書）取得の一手となるよう子どもたちをサポートしています。

## 虹の学校の始まり

10年前、玉城氏が現地の方と出会い、この地の現状（当時は今よりも未就学児童が多く問題になっていた）を知り、子どもたちのために良い学校をつくらう！と決意したのが虹の学校の始まりです。その小さな縁が子どもたち、私を含めた先生やスタッフ・村人たちへと広がり、今の虹の学校ができあがっています。

そして活動していく中でいろいろな状況を知っていくこととなります。

ここサンクラブリはゴムのプランテーションがあたり一面覆っています。豊かな森に住んでいた山岳民族は、狩猟採集、農耕作で十分に生活していましたが、森を奪われ、経済の波に乗らなければ生きていけない生活を強いられることになり、タイ人としてのIDを持たず読み書きもできない彼らには貧困という形にしかなりようがありませんでした。私たちが当たり前に使っているゴム。その生産の過程にはこういった事実があったのです。ゴムに限らず、このような事態が世界中で起こっているであろうことは想像に難くありません。

ご縁をいただき、この地にやってくるようになりましたが、ここに来て私たち日本人含め、先進国と呼ばれる国々には大きな責任があることをより強く感じています。

山岳少数民族の方たちは、かつての日本と同様に経済の流れでどんどん生活スタイルを変えています。日本は戦後の経済成長を経て、金銭的には豊かな国になりましたが、伝統文化や信仰心など、その過程で失ってきたものもたくさんあります。

この地でその過ちが繰り返され





年2回の森合宿。自然の中で生きる力を育む



体育の授業。みんな球技が大好き



田植え作業。すべて手作業の米作りから学ぶことは大きい

- 実践から学ぶ課外活動(村人たちと行う伝統的な「稲作」と山岳民族の森での暮らしを学ぶ「森合宿」)
- 村人から学ぶ伝統文化と暮らし(伝統工芸や山菜、薬草、農機具の使い方等)
- 虹の学校の来訪者から得意分野を教わる

皆様方に虹の学校の活動をご理解、ご支援いただけたら幸いです。どうぞよろしくお問い合わせします。

Information.....  
 クラウドファンディング..  
<https://readyfor.jp/projects/rainbowschool>  
 FB: 虹の学校 フェアライフ  
 (rainbow school fair life)



虹の学校はタイ・ミャンマー国境にまたがって暮らすモン族やカレン族の孤児や貧困家庭の子どもたちを受け入れて10年になる児童養護施設兼学校です。今年3月に立ち退きを余儀なくされ、30名の子どもたちとスタッフは仮住まい。この逆境のなか、子どもたちが安心して暮らしていくことのできる土地と宿舍、学校を自力で再建しようと決意し、クラウドファンディングに挑戦することにしました。

昨年の大晦日。寒空のもと旧校舎にて

### 教育活動

ぬよう、本当に価値のあるものを守っていけるよう、第三者である私たちが認識することで、彼らが誇りと自信を持ってそれらを継承していける可能性があるのではないかと考えています。

- 虹の学校では、タイで定められているカリキュラムに加えて、以下のような「独自の教育活動」も大切にしています。
- 日本語・体操・音楽
- 自分の好きな事を選択して実践する「Rainbow Day」
- 自分のテーマを決めて研究する ESD (Education for Sustainable Development)

### 虹の学校の現状

これまで10年間活動してきましたが、2018年3月末、活動を行なってきた土地の返還を余儀なくされました。そして、それと同時にタイ政府公認の学習センターとしての登録も解除されてしまいました。現在は近隣の方のご厚意で場所をお借りして、仮住まいをさせていただいておりますが、今後活動を継続するためには土地を取得し、再度学習センターとして登録をし直す必要があります。そのためには多大な費用がかかります。そこでは私たちが6月4日から8月31日までの間、クラウドファンディングに挑戦し、新天地で活動再開できるように、ご支援を募らせていただいております。

# タイ山岳民族の伝統工芸の世界 ポー・カレン族の織物に触れる

「ソップモエアーツ」の磯村真沙子さんに、  
ポー・カレン族の織物と竹細工のお話をうかがいました。



5月22日(火) 磯村真沙子さんをお迎えして、ポー・カレン族の作りだす美しい織物や竹細工の作品が、人々の手に届けられるまでのお話をうかがい、その後、出席者参加型のワークショップを行いました。定員を超える申し込みがあり厳正な抽選が行われ、当日は29名の参加となりました。

磯村さんは、「ソップモエアーツ」での22年間にわたるボランティア活動の他に、日本人会館別館こども図書館のボランティア活動にも16年間かかわっていらっしゃいます。元々は外資系コンピューター企業のマーケティング分野で活躍されており、イタリアでの駐在中にご結婚。ご主人のバンコク転勤を機に仕事を辞めてバンコクに移住されました。ご自分のキャリアを社会貢献に役立てたいと考えられていた頃に、バンコクのイベントで、美しく繊細な竹細工や織物の作品に魅入られ、ものづくりプロジェクトの創設者のケント・グレゴリー氏との出会いが、今も続けている「ソップモエアーツ」での活動の始まりとなられたそうです。

今回の講習会では、「ソップモエアーツ」のことについて磯村さん



中央が磯村真沙子さん

ん自身が撮影されたというお写真を中心にビジュアルを通して、お話を聞かせていただくことができました。

タイ北西部、ミャンマーとの国境付近の山岳地帯「Sop Moei 郡」にカレン族の村々が点在しています。焼畑農業で米や野菜を作る自給自足の暮らしで、アニミズムを信仰しているポー・カレンの人々にとって豚や鶏は捧げ物。電気もないので、作業をすることが出来る時間は限られ、雨季には、

川の水が溢れ、交通手段がなくなり、行き来も困難になる。そんな栄養状態、衛生面も良くない生活環境の中で、ポー・カレン族の住むメトラ村で共に生活をし、カレン語を学び、長い年月をかけた彼らの信頼を得るまでになったケント

氏が、スウェーデン政府の協力を得てポー・カレンの人々の栄養、衛生面の支援を始め、さらに彼らの作り出すバスケットや織物の美しさと技術を現金収入に結びつけるために「ソップモエアーツ」を立ち上げました。



その後、ポー・カレン族の織ったジュエリーを使い、各自のレイアウトを作りました

そんなケント氏との運命的な出会いと、ポー・カレンの人々の作り出す物に本物を感じられた磯村さんは、ご自分のキャリアを活かして貢献できれば、との思いから、このプロジェクトでマーケティングなどのお手伝いを始められました。

チェンマイとバンコクにお店があり、その売り上げが村の人々の生活の糧となっています。はじめのうちは、ボランティアだけで立ち上げたバンコク店ですが、現在は、お店の運営や、会計処理、作品のデザインなども英語を話せるカレン人のスタッフが中心となり、それを駐在の奥様を中心とするボランティアが代々サポートして行なっています。

ポー・カレンの人々の生活や文化を守りながら、彼らの働き方には制約をかけず、織り手には機を与え、出来高制でありながらも、お金の使い方にも口は出さない。イギリスのデザイナーの指導を繰り返し受けながら、伝統を守りながらも高品質でモダンな作品が次々と出来上がっている背景には、今もこのプロジェクトに携わっていらっしやる磯村さんをはじめとするボランティアの方々、ポー・

カレンの人々と作品に対する熱い思いを感じることができました。これからもスタッフとボランティアの方々の手掛けられる「ソップモエアーツ」のPR活動やイベントを通して、素敵な作品が人々に届けられることでしょう。

お話に感銘を受けたという感想や、ボランティアに対する質問などもあり、受講者の方々が活動に感動した様子が会場内に伝わってきました。

磯村さんのお話の後、ポー・カレン族の織った布を使って小物を作る、参加型のワークショップとなりました。数種類の布地の組み合わせのセットの中から、それぞれが好みのものを選びました。2枚の布地を縫い合わせてアイロンで形を整えた後、四角をつまみ、可愛いビーズ飾りを縫いつけて、1時間弱で、ジュエリートレイの出来上がり。織物の模様の違いや、模様と無地の生地の違いや、模様のつまむ幅の違いなどから、作り手の個性が出て、素敵な作品が出来上がっていました。婦人部では、これからも皆さんに楽しんでいただける催しものを企画していきます。是非ご参加ください。

# タイを知る会30周年記念 タイ伝統操り人形劇

「2018年5月20日(日)、タイを知る会30周年記念として、サコーン・ナータシン劇団による、「タイ伝統操り人形劇」を上演しました。



ベンヤカーイ



ラーワナ



ハヌマーン

できるだけ多くの方々に観て  
いただきたく、定員100名の  
ところ、実際はイス席120名  
分、お子様が座るマット席も30  
名ほどとなりました。

当日は、人形劇以外にも催し  
ものをということで、元日本留  
学生協会会長のブツサディ氏に  
よる日本語解説を交えて行いま  
した（p21写真・左上）。

劇団最年少のジーン君（p21  
写真・左下）によるお稽古の様

子の披露、人形遣いの方の動き  
や人形の感情表現、また各楽器  
の説明もあり、人形劇を観るだ  
けでなく、さらに踏み込んだ鑑  
賞ができたのではないかと思います。

人形劇はタイの古典文学、ラ  
ーマキエンの有名な2場面を上  
演しました。2場面目では、タ  
イで人気のハヌマーンがベンヤ  
カーイを探して空中散歩をして  
いる場面があり、人形が花道を



使って自由自在に探し回り、観客と触れ合う時間が多くとられました。

その後も、人形遣いの動きをお子様体験したり、楽器に触れる経験を時間が許す限りとるようにしましたが、これはプッサディ氏と劇団の皆さんの、多くの方に体験をしていただきたいという強い要望があつてのことでした。

今回の公演のために尽力いただきました、協力会員であるプッサディ氏、ならびに山川喜美代さんに心よりお礼を申し上げますとともに、タイ国日本人会理事、事務局の皆様、そしてお越しいただきました皆様と楽しい時間が共有できましたことを、感謝申し上げます。

#### 劇団とサコーン師のこと

タイを知る会協力会員  
山川喜美代

この人形劇団とタイを知る会との交流の始まりは、プッサディ氏の紹介によるもので25年になります。

日本公演の後、チェンワッタナーの自宅に訪問したのが劇団との交流のはじまりです。サコ

ーン師と9人の兄弟による劇団でした。3人で一体を操ります。「幻の人形劇」と呼ばれ、長い間、誰も見る事ができませんでしたが、1985年にサコーン師がタイ政府観光局の依頼で人形を作りました。

自宅が火事に見舞われ、幾つかの人形を救い出せたくらいの災禍に遭い、また一からのスタートになりましたが屈せず、王女様の支援もありチェンワッタナーやルンピニー公園などの劇場で公演していました。

人形はサコーン師のアイデアで、衣装は家族で縫いあげています。今回の人形は長女のニンさんがすべて手縫いで作りしました。

サコーン師は旅芸人の家庭に生まれ、タイの民衆芸能である歌舞劇などの経験をもち、1994年には人間国宝に値する優秀なタイのアーティストに授けられる「ナショナルアーティスト」に選ばれた方で、2007年に85歳で他界しました。やはりお葬式も王女様の支援で執り行なわれました。

現在、劇団はアジアテイクに小さい劇場を設け、ジョーリスシアターとして公演しています。



日舞「千恵子よされ」



クロントイ地区から招待した子どもたちと

**DUANG PRATEEP FOUNDATION**  
 Since 1978  
 Education sponsorship Child nutrition children's art club helping disabled children Rehabilitating young drug addicts Youth groups Nihon Caravan puppets Senior citizens group Support for the disabled Run fire brigades Community development Aids project Credit union Disaster relief Outreach to rural areas

2018年8月30日

SAKIGAKE 企画  
 ジャパン・ブライデー・プラティープ財団  
 様 へ

5月27日は「SMILE 国際文化交流」にお誘いいただきまして、ありがとうございました。子どもたちも多くのおきま方のおかげで日ごらの様子を披露することができ、大変喜んでおりました。

このような国際文化交流の機会がこれからもどんどん増えて、日本とタイ両国に生きる人々の絆が強まってまいりますよう願っております。

本日はありがとうございました。

敬 具  
 ジャパン・ブライデー・プラティープ財団代表者  
 U. Ht.  
 プラティープ・ワンソナム・様

34 Soi Duang Prateep, Ari Narong road, Lock 6, Klongtoey, Bangkok 10110, Thailand  
 Tel. +66(0)2149-4888 or 0-2149-3153 or 0-2149-8842 or 0-2673-8849-0 Fax. +66(0)2149-6234 or 0-2149-9198  
 duangprateep@gmail.com, info\_duandprateep@hotmail.com, www.duandprateep.com, www.duandprateep.org

ドゥアン・プラティープ財団からいただいた感謝状

り、歌、演奏とともに、クロントイの子どもたちのタイ舞踊とウクレレ演奏が披露されました。

たくさんの方々の応援、ご協力のもと大成功で終わることができました。皆様、ありがとうございました。

ジャパニーズダンシング舞とSAKIGAKE企画主催の国際文化交流チャリティーイベント「くおもてなしの心で繋ぐSMILE」を、5月27日にバンコクアトカルチャーセンターで開催しました。

クロントイ地区の子どもたち30人を招待し、当地に根ざして活動

するドゥアン・プラティープ財団に2万バーツの寄付をすることができました。

日本からSAKIGAKE企画の北条さん、蝶羽さん、それに賛同してくださった昇龍祭太鼓、ちとせさん、小原亜裕子さん、民舞の会、ジャパニーズダンシング舞、よさこいバンコク良処の踊

【文化部】民舞・日舞・よさこい同好会 久保幸子

国際文化交流チャリティーイベント  
 くおもてなしの心で繋ぐSMILE  
 日本人グループによる多彩な歌とともに、クロントイ地区の子どもたちによるタイ舞踊とウクレレ演奏が披露されました。

【運動部】ラグビー同好会 BJRFCキッズコーチ一同

# キッズラグビー教室2018開催

今年もラグビー界のレジェンド松尾勝博氏が来場。初めての子どもたちも参加して白熱戦が展開されました。



ボールde障害物リレー



ボールリレー

タグラグビー

2018年6月9日、目覚めると朝から雲行きが怪しい。雨降るまいか?? そんな一抹の不安を抱きながら、日本人学校へ向かう。

まだ誰もいない第2グラウンドに到着。事前に子ども参加人数30名を知らされていたが、やはり実際に目にするまでは気が落ち着かない。時間が開始時刻の9時に迫るにつれ参加者は徐々に集まり、さあ、いざ開始。今年は去年の反省も含めMEDICALにサミテイバート病院の医療チームにも待機してもらい熱中症対策もバッチリ。いざ、はじまり、はじまり。

冒頭、日本人会理事の中村運動部長に来賓あいさつをいただき、そして、今年もラグビー界のレジェンド松尾勝博氏登場。

お待ちしておりました!! 若干緊張気味だった子どもたちの顔も徐々に笑顔に変わり、親子のdeストレッチ、ミラーゲーム等



リフト!

々を行い、さあいざラグビーボール手にとると、土砂降りの雨……流石に一時中断、暫くしても雨は止まず、屋根のあるグラウンドへ急遽移動し、リフト体験や、ボール取り競争を行った。子どもたちは、みんな楽しんでくれている様子だった。

しばらくすると雨は止み、再び第2グラウンドへ戻り、チーム対抗パスリレーやミニタグラグビーを行った。ラグビーボールを初めて触る子どもたちもいる中で、白熱したゲーム展開がなされていた。今年は、天候には恵まれなかったが、子どもたちには大いに楽しんでもらえた様子。我々としても大変有り難く、熱い一日となった。

最後に、開催にあたりご協力いただいた皆様方、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



ラグビー界のレジェンド松尾氏(左)

# ミニ剣道大会開催

今学期を最後に引退する中学3年生2名にとっては最後の試合になるミニ剣道大会が開催されました。



主将の鈴木萌花さん

先月、私にとって中学最後のミニ剣道大会が開催されました。始めは期待や不安など色々な感情が混ざり合い、落ち着きませんでした。開会の時にさせていただけだった選手宣誓で、自分がこの大会をどんな大会にしたいのか、改めて確認することで、い

ミニ剣道大会を通して  
主将 鈴木萌花（中3）

5月26日（土）、日本人学校にて青少年サークルミニ剣道大会が開催されました。今学期を最後に引退する中学3年生2名にとっては最後の試合となります。2人は主将、副主将として1年間サークルをリードしてくれました。彼女たちの稽古に対する真剣な眼差しは全ての部員にとってお手本となるものでした。また、サークルを支える保護者や指導者の存在に気づき、それらへの感謝を、言葉だけでなく、気合のこもった剣道で表現してくれました。ここでの経験を糧に、これからの新たな挑戦にも力を発揮してくれるものと期待しています。

試合のスタートを切ることでできたと思います。試合では、皆、隙がほぼなく、一本とることも一苦労でした。それでも、先生方からいただいたアドバイスを意識し、3位に入賞することができました。優勝できなかった悔しい気持ちはありますが、今の自分の全てを出し切った試合ができたので悔いは残っていません。今回の反省を、これからの稽古、試合に活かし成長していきます。

ミニ剣道大会を振り返って

副主将 田中莉里桜（中3）

今回の大会に向けて、私は前々からの課題である「一本を決めきれない」ということを克服できるように練習に励んできました。剣道では、気剣体の一致がなければ一本と認められません。3名の審判が認めてくれるような打突になるよう練習に工夫を重ねてきました。しかし、試合本番では、思い切った技が出ず、数本しか決めることができませんでした。努力が実を結ばず悔しかったですが、この大会で見つかった課題を改善できるよう、今後も練習を頑張っていきたいです。



# ワットリアップ育英基金伝達式

【事業部】

大会後のお楽しみゲームでは、サークル部員の子たちとうまく協

力できたことで、見事1位を取ることができてうれしかったです。

引退まで残り少ない期間の中で、より剣道がうまくなるような

意義ある練習をしていきたいと思っています。



ワットリアップに集まった20校、244名の奨学生一人一人に、奨学金が手渡されました。

6月22日(金)にワット

リアップにて行われたワットリアップ育英基金の伝達式に、日本人会から神原事業部長、石井理事らが参加しました。今年は20校、244名の奨学生が来場し、子どもたち一人一人に奨学金が手渡されました。

1992年4月、日本人会納骨堂のある、ワット・ラーチャプラナ(通称ワット・リアップ)の住職、プラ・ラーチャブルツタチャーン師が逝去されたことにより、「子どもたちに教育を受けさせたい」という師の遺志を継ぎ、1994年、プラ・ラーチャブルツタチャーン慈善の会が設立され、学資の必要な子どもたちに、毎年6月22日に授与しています。6月22日は、ワットリアップ内の少年僧のための学校の



ワットリアップの大僧正を囲んで、日本人会理事、高野山真言宗タイ国開教留学僧の会の方々と

創立記念日であり、それに併せて伝達式が行われています。日本人会はワットリアップ育英基金を支援しており、今年もチャリティー基金運営委員会より5万バーツを寄付致しました。

写真 = 瀬戸正夫、日本人会(上段の授与式)



連載 60

# トライローカナート王の息子たち (3) レヌカー・M

## ● 河の都の宿命

ウートーン王以来、初期アユタヤーの王たちは、北タイ諸国と戦った。

1351年の建都後、年代記にはないが、ウートーン王はチェンマイと戦い、多数の捕虜を連れ帰ったとされている。

第2代ラーメスワンに座を譲られたパグアはピサヌロークおよびチェカンラオに出征し、し

ばらく滞在する。その後の出戻りラーメスワン、アユタヤー3代目の王のチェンマイとの戦いは激烈で、戦果も大きかったと年代記は記している。

アユタヤー王はなぜ、それほど執拗に北を攻めたのかと、著者も書き出しの頃はだいたい悩んだ。

去年になって、リーベルマンの「不思議な平行線(Strange Parallel)」を読んで、隣国

ビルマでも、15世紀には河を挟んで上下、南北の競り合いがあり、そこから統一政権が生まれたことに気づかされた。

東南アジア大陸部では、川は北から南へ流れる。それが、東南アジア大陸部の常識であるなら、歴代のアユタヤー王たちが北と戦ったのは、河の都の宿命にしたがったまでであったかもしれない。

アユタヤーから下流は、まだ泥海である。財宝と奴隷を得たいなら、進むべきは北である。

北の分水嶺を越えれば、メコン河は雲南に通じ、シルクロードへの道がある。北へ向かう河の道はシルクロードへの短絡路として富んでおり、沿岸に山の幸を集荷する国々がひしめいている。

落ち着いて考えれば、アユタヤー王たちが北を目指したのは、当然の成り行きであった。

北の都にとっても、河の流れに沿って、国々を制覇し、南の新興国アユタヤーを奪いたい欲が出て当然であったろう。アユタヤーがクメールを制覇したことも、その欲に油を注いだ。

## ● 偉大な父の翳に

アユタヤー第8代目の王トライローカナートは生涯を通じて、北タイ諸国と戦った。

ピサヌロークでアユタヤーの副王になったトライローカナートは、1448年の父王の死後、アユタヤーへ戻り、国王として即位する。18歳であった。

チェンマイの老獅子王テイロカラート王は、青年王トライローカナートに戦いを挑む。アユタヤーと北部との戦いはより頻くなった。

待遇に不満を持った王の幼馴染・ピサヌロークのユティサラ



「イントララーチャー王子 ムーン・ナコンと戦う」『ラタナコーシン暦120年出版 王朝年代記』(タイ歴史協会と文化省出版 2550)より

トが、機を見て、チェンマイに走ったのは1451年である。叙事詩「リリット・ユアン・パイ」に描写された戦いが、シーサチャナラーイ地域を中心に始まった。

この南北の戦いで活躍したとされるのが、トライローカナート王の長子イントララーチャーである。

まず、王子の輝かしい登場は、叙事詩「リリット・ユアン・パイ」に描かれたピサヌロークからの行進である。王子は北へ向けて進軍する軍勢を率いる若大将として美々しく描写されている。

しかし、この時、トライローカナート王は何歳で、イントララーチャーは何歳なのか？

もし1451年の戦いの描写なら、王は21歳である。その子は？

イントララーチャーの生年は記されていない。トライローカナート王が早熟であったとしても、またはまじめに王としての必要に駆られて、子をなしている、その子はとても戦場に出る年には達してなかったろう。

「リリット・ユアン・パイ」は

「時を無視している」というか、トライローカナート王の北へ向かう軍勢の中で、一際美々しい若武者ぶりを見せたイントララーチャー王子の姿は、1451年の姿ではなく、その後おそらく12年後の1463年の戦いであろう。

### ●父を支えて、奮闘した息子

1463年、トライローカナート王は国王の座をピサヌロークに移す。33歳の王の北志向はいよいよ強くなったのだ。

王はアユタヤーにはアユタヤー王として、息子イントララーチャーをポロム・ラーチャー3世として立て、即位させた。トライローカナートが父になったのは15歳とすれば、イントララーチャーは18歳で、ポロム・ラーチャー3世となったのである。

そこへ、チェンマイからティロカラート王が攻め入ってくる。敵を迎えて、トライローカナート王とイントララーチャー王子はピサヌロークから出兵する。

御座船に乗って、ナン川をさかのぼるトライローカナート

王とその軍。沿岸を行進する象と馬の群れ。

ほら貝がうなる。王傘をさしてさんざめく陽の中を威風堂々と進む父王の後部を守って、「その名も輝かしい」王子が続く。

「その名も輝かしい」王子はイントララーチャーのことであろう。すでに王子はポロム・ラーチャー3世になっている。

アユタヤー王朝年代記プラス1ト版では、この戦いの描写でイントララーチャー王子と呼んだり、ポロム・ラーチャー3世と言ったりしているのは、2人が同人物であるからだ。

イントララーチャー王子ことポロム・ラーチャー3世は、この戦いで目に矢を受けたが、負傷を生き抜いた。

翌年、トライローカナート王はチュラマニー寺院に仏殿を建設し、受戒して、僧侶となった。8ヶ月も入山していて、王はそのまま還俗しなくなかったのだから、王が僧籍では、チェンマイのティロカラート王を率制できない。イントララーチャー王子も重臣とともに寺に参り、王に還俗を願ったと記され

ている。

それから24年、イントララーチャー王子は、アユタヤーのポロム・ラーチャー3世として、父に国に尽くした。

南北の争いは続いたが、1487年のティロカラート王の死後、ほどなくトライローカナート王もピサヌロークで没し、南北の戦いは勢いを失った。

1488年の父の死後、1990年にアユタヤー王ポロム・ラーチャー3世は、国王イントララーチャー2世となる。

父王の死と治世の始まりに2年のブランクがあるのは、何を語っているのか。

アユタヤー王24年間プラスプラスは、事実上は国王であったのかもしれない。そしてまた、国王の位を急いで継承しなかったのは、偉大な父王への子と宮廷の畏敬からかもしれない。

イントララーチャー2世はその後2年しか生きなかった。

偉大な父が若き日に生ませた王子は、父とともにその治世を歩き、働き、戦い、よく仕えた。トライローカナート王の治世はこの王子なくしては、成り立たなかったのではないか。

理事会議事録（二〇一八年六月十二日（火）開催）

一、新オブザーバー紹介

- ・西岡良樹氏 タイ情報誌制作会社代表 (Rydeen Co., Ltd.)
- ・小田原靖氏 バンコク スリウオン ローターリークラブ代表

(Personnel Consultant Manpower (Thailand) Co., Ltd.)

二、会長挨拶

会長報告（会長出席案件）

- ・五月十一日（金） チョンプリ・ラヨン日本人会

関田会長、怒和顧問来訪

- ・五月二十六日（土）「ダンス&サイレントコメディ」

コンビGABEZ公演 in バンコク

- ・六月 八日（金） 日本生鮮卸売市場「トンロー日本市場」

オープニングセレモニー

- ・六月 九日（土） シーカー・アジア財団

二〇一八年度奨学金授与式・来賓スピーチ

日本人会の抱える課題の克服に向けて、企画推進部を設立、六月八日（金）に最初の会議を行った。小田原オブザーバー、西岡オブザーバーにもご参加頂き、積極的なご提案や意見を頂いた。

企画推進部で企画された案については、理事会にて議論し、関連する部会があるものについては、その部会で実行、関連する部会のないものについては、新しい組織にて実行していきたい。今回の理事会からも、具体的な案が挙がってくるので検討頂きたい。

三、一般報告

- (一) 五月度個人会員動向

入会者 三二二名

退会者 一八四名

現会員数 六、八七二名（内、準会員四十名）

- (二) 五月度賛助会員動向

〈入会 一社〉

・イセ オーバーシーズ コーポレーション リプレゼンタティブ オフィス (鶏卵市場調査)

〈退会 二社〉

・バンコク・ゴルフセンター (ゴルフ教室 ゴルフ用品販売)

・ナガノプレジジョン (タイランド) 株式会社 (金型、パーツ製造)

現会員数 五五八社

- (三) 五月度会館来訪者数

本館 三〇名（実数 一五九名）

別館 二、三九六名（実数 五八七名）

合計 二、九八三名（実数 七四六名）

- (四) 五月度寄贈報告

・本の寄贈

東田幸夫様、増田吉孝様、岩崎悦子様、福音館書店、その他二名（順不同）より、二三二冊の寄贈

- (五) 六月の主な会議と、部・同好会の主なイベントを紹介（事務局）

六月二十二日（金）文化部、タイを知る会・見て歩き「アユタヤ日本人町跡見学」、六月二十六日（火）婦人部ウエルカムパーティー、在タイ一年未満の方を対象に開催予定。多くの会社から協賛品のご提供を頂いており、感謝申し上げます。

四、チャリティー基金運営委員会（総理事）

・委員委嘱

チャリティー基金運営委員会の規定に則り、理事からのチャリティー委員を森本副会長、三枝チャリティーバザー実行委員長、黒田婦人部長兼チャリティーバザー実行副委員長に委嘱した。

・ワットリアップ育英基金への五万バーツの寄付報告。

五月二十八日(月)開催のチャリティー基金運営委員会で、ワットリアップ育英基金への寄付、五万バーツを決定した旨報告。二〇〇一年より、「ワットリアップ育英基金」継続的に寄付支援(奨学金)。この基金は日本人納骨堂のあるワットリアップの前住職が逝去(一九九二年)された際に、住職の遺志を継ぎ設立(一九九四年)された基金で、昨年(二〇一七年)は、全国の公立学校の中から選ばれた十九校・二二一名に学資支援を行った。

五. 理事交代・新理事承認(渡辺理事)  
理事退任

・鱸 正明氏・チャリティー基金運営委員長

(Bank of Ayudhya Public Company Limited)

新理事承認

・中田 雄三氏 (Bank of Ayudhya Public Company Limited)

―― 全会一致で承認された。

六. タイ国日本人会後援名義・ロゴ使用申請

(一) 対象事業名: EAT MEATS FEST

・開催日: 二〇一八年六月八日(金)より六月十日(日)

・主催: Dream Express [DEX] Co., Ltd.

・要請事項: 日本人会後援名義、ロゴ使用及び広報協力

―― 異議なく、事後承認された。

(二) 対象事業名: 瀬戸正夫写真展 in バンコク

・開催日: 二〇一八年八月十七日(金)より九月一日(土)まで

・主催: 瀬戸正夫写真展実行委員会

・要請事項: 日本人会後援名義、広報協力

―― 異議なく承認された。

(三) 対象事業名: RADWINPS Asia Live Tour 2018 in Bangkok

・開催日: 二〇一八年八月十八日(土)

・主催: AVALON LIVE Company Limited

・要請事項: 日本人会後援名義、ロゴ使用及び広報協力  
―― 異議なく承認された。

(四) 対象事業名: プラータナー・憑依のポートレート

・開催日: 二〇一八年八月二十二日(水)より八月二十六日(日)まで

・主催: 国際交流基金バンコク日本文化センター

・要請事項: 日本人会後援名義、ロゴ使用及び広報協力

―― 異議なく承認された。

七. 企画推進部(伊藤理事)

(一) 新企画プロモーション部(仮称)を「企画推進部」と名称を正式決定し、その一回目の協議を 六月八日(金)に開催した。参加者は、島田会長・伊藤副会長・森本副会長・小田原代表・西岡代表・事務局。

(二) 企画推進部規定を提案

第1条 名称: 当部はタイ国日本人会企画推進部と称する。

第2条 部の運営: 部長は理事中より会長がこれを委嘱する。部の運営は、部長・副部長が行い、事務局は部を補佐する。検討事項によっては、部長の判断より外部からも有識者の出席を求める事ができる。

第3条 部の構成: メンバーは、会長より委嘱された部長、副部長、担当理事、オブザーバー、事務局により構成される。

第4条 部の役割

(1) 日本人会の会員・サービス増強施策を検討するため基本月一回(三役会後に)会議を招集する。

(2) 内容は、新規イベント企画、プロモーションの充実、会館利用のサービスクラフなど日本人会を活性化させるためのアイデア提案・討議の場とする。

(3) テーマにより、関連する部や委員会と連携して推進する。

(4) 企画推進部は決定機関ではなく、理事会にて提案、実施する。

第5条 予算: 部の運営に必要な費用は、理事会に申請をし、承認を得るものとする。

―― 異議なく承認された。

八. JICA・日本人会共催イベント予算承認(伊藤理事)

・イベント名:「夏休み企画」親子での参加大歓迎! パープルライン視察会

・開催日:二〇一八年八月六日(月)

・参加人数:大人子供あわせて四十名

・JICAのご担当者からのプロジェクトの説明・中央管理室や車両基地の見学・パープルライン乗車体験。

・企画推進部の予算措置として、一万二千バーツ申請したい。

――【修正案】電車運賃は自己負担として、九、三二〇バーツを予備費から支出する。

――修正案にて、全会一致で承認。

九. 賛助会員企業・内規の条件緩和報告(伊藤理事)

賛助会員について、規約では、「在タイ日本人会の関係する法人」となっており、内規にて、タイ政府登記している企業団体であること(風俗営業以外)・代表者または日本人担当者個人会員に入会頂くこと(日本国籍でない場合は準会員に入会頂く)となっている。

今回、条件を緩和し、法人・団体等であれば、タイ政府に登記していなくても可とし、日本国内の法人でも入会を可能にする。また、代表者または担当者については、特に個人会員に入会しなくても可とする旨報告。

事務局補足:日本の法人から広告依頼が増えているが、内規上、現在はお断りしなければならぬ状況。広告収入が減少する中、日本の法人を取り込むことによって広告収入の増、及び会員へのメリット向上が期待される。

十. 準会員申請

Mr. Kim Absol・Mrs. Kim Chanvong・Mr. Rapassit Charventunyarak、三名より、準会員申請があり、承認された。

十一. 名誉会員選定基準について(事務局)

・名誉会員は、タイ国日本人会規約 第2章会員・第5条・3項にて、「本会に対し特別な貢献のあった者で理事会において選ばれた者」と規定しているが、慣例に従いその都度理事会にて検討してきた。今回、具体的に内規

を定めた検討し、次の条件のいずれかを満たす者とする」とした旨報告。

(一) 会長・副会長を歴任した者

(二) 理事を十年以上歴任した者

(三) 理事を歴任し、日本人会での活動が評価され、叙勲もしくは、国・政府機関から表彰を受けた者

(四) その他、日本人会に特別の貢献のあった者

次回理事会までに、対象者の選定をしたい。

十二. 各部・各委員会報告及び提案等(報告順)

(一) 教育部(田中(郵船)理事)

六月三日(日)二〇一八年度第一回英語検定一次試験を日本人学校にて実施。二級九十八名、準二級七十三名、三級八十七名、四級六十名、五級四十名、合計三五八名。当日は、四十九名のボランティアと、七名の日本人学校の先生にお手伝い頂いた。過去の第一回英検受験者、二〇一五年度 四六九名、二〇一六年度 四〇八名、二〇一七年度 三七一名と減少傾向にある。これは、英検受験には満たない。年少者が年々増えてきていることが理由と考えられる。二次試験は七月一日(日)日本人学校にて実施予定。

(二) 婦人部(黒田理事)

五月二十二日(火)タイ山岳民族の伝統工芸の世界ポーカーレン族の織物に触れるくを開催。講師は磯村真沙子様。大変人気で抽選となり、参加者は二十九名であった。

(三) 青少年部(事務局代理)

二〇一八年三月末の部員数は、二五六名、四月末の部員数は二一九名、と帰国にともない減少していたが、五月に入り部員数も五十五名増加し、二七四名となった。

(四) 運動部(事務局代理)

六月三日(日) バンコク日本人学校第一グラウンドにて、第四十二回ソフトボール大会開会式を開催。今大会は、全二十三チーム、四九九名が参加。八月五日(日)まで予選リーグを開催。決勝戦を八月十九日(日)二十六日(日)に予定。

六月九日(土) ラグビー同好会主催、キッズラグビー教室がバンコク日本人学校にて開催。元ラグビー日本代表の松尾勝博氏が特別コーチとして参加。昨年も開催され今年で二回目、参加人数四十名。

(五) 広報部(田中(伊藤忠)理事)

五月のホームページアクセス状況は、訪問数七、七九七。閲覧数二二、一四九。前年同月比、訪問数一〇〇・一%、閲覧数一〇五・八%。前月比は、訪問数一二六%、閲覧数一二五・七%。タイからの訪問数は六一〇・六%、日本からは三四・六三%。前年・前月と比較し、訪問数・閲覧数共に増加傾向である。先月に引き続き今月も英検に関連したページの閲覧数が特に多かった。昨年一月より、月曜日と木曜日にLINE配信をしている。LINE登録者数 一、六五〇名、五月度四十六名登録。

(六) 在タイ日本国大使館(野中領事部長)

・外務省より、海外在留邦人数調査統計の発表があった。タイは全土で七二、七五四名、年々増加傾向にある。外務省のホームページに公表しているの  
で活用して頂きたい。

・反政府集会在、六月七日(木)九時に民主記念塔近くであったが、大きな混乱はなかった。

・六月十七日(日)が、ラマダンの最終日となるため、気を付けて頂きたい。

(七) 運動部・ゴルフ部(神原理事)

・五月二十日(日)ゴルフ部第六九七回月例会をラムルッカC.C.にて開催。  
Aクラス優勝川俣栄氏、Bクラス優勝岩村将成氏。

・四月二十八日・二十九日(土・日) ゴールデンプラケオカップに於いて  
日本人会ゴルフ部は九位だった旨報告。

(八) 事業部(神原理事)

・六月二十二日(金)ワットリアップ育英資金伝達式に出席予定。

・六月十六日(土)日本人納骨堂にて、月法要を開催。毎月第三土曜日十時  
より月法要を開催。お時間のある方は参加して頂きたい。

(九) 食堂運営委員会(石井理事)

五月の売上は一、五七二、三八〇バーツ。昨年同月比八四%。タイ人顧客  
数四、六五四名、邦人顧客数一、三五二名、顧客総数六、〇〇六名となっ  
ている。邦人顧客会員利用者延べ人数は二五〇名、実数一三二名。

(十) 会報部(富永理事)

七月号の特集は、JICAが支援する人身取引防止の取り組み『ストッ  
プ!人身取引』JICA様より、冊子「まだ見ぬ正義 人身取引被害者の  
訴訟プロセスの遠い道のり」を、百冊提供頂いた。本館別館窓口にて希望者  
に配布する予定。もう一つの特集は、二〇一八年度新役員紹介。表紙はブン  
カーン県、ヒンサムワーン(三頭のくじら岩)。

十三. 日本人会今後の予定(事務局)

・二〇一八年度の三役会・理事会のスケジュールを確認した。

・AED講習会、七月十九日(木)別館にて開催予定。

十四. 五月度理事会議事録承認

―― 異議なく承認された。

十五. 理事会出席者(敬称略、順不同)

島田会長、森本、伊藤、田中(伊藤忠)各副会長、渡辺、西村、酒見、加  
藤、神原、田中(郵船)、土田、黒田、富永、三枝、鱈、石井各理事、相原監  
事、野中大使館代表、田中JICA代表、吉岡国際交流基金代表、小田原バ  
ンコクスリウオンロータリークラブ代表、西岡タイ情報誌制作会社代表(熊  
本・村上・渡邊)



## 絵本

『かぜびゅんびゅん』作／新井洋行

『パパおふろ』作／きくちちき

『10ねこ』作／岩合光昭

『のっていこう』作／木内達朗

## 物語

## 図鑑

『ポップコーンの魔法』

作／たかどのほうこ 絵／千葉史子

『転んでも大丈夫』作／白井二美男

『あるかしら書店』作／ヨシタケシンスケ

『かんたん! たのしい! トランプあそび』監修／大野啓子

『きれいですごい魚』文／赤木かん子 監修／松浦啓一

『いのる』作／長倉洋海

★開館日は、火・水・金・土の10～16時です。(日本人会休館日は閉館。)

★バンコク子ども図書館 ☎02-662-4950

★詳しい情報は、[www.facebook.com/kodomotosho](http://www.facebook.com/kodomotosho) をご覧ください。



# 講演会のお知らせ

## 『戦前のタイ国日本人会の史実に迫る』

2010年8月より丸8年間、クルンテープ誌に連載して頂きました「バンコクの日本人」(著者：村嶋英治氏)は、本年8月号を以て終了いたします。

「バンコクの日本人」では、タイ国日本人会の歴史について、随所で言及されております。日本人会は、敗戦と戦後再開までの間に、8年間の断絶があるため、戦前の日本人会の情報が欠如していたり、間違っていて伝わっていたりするものも少なくないという村嶋氏の見解を、直接読者の皆様に講演する機会を設けました。

本講演では、著者の村嶋氏をお招きし、戦前の日本人会の史実にできるだけ迫ってお話し頂き、質問に答えて頂きます。

講師：村嶋英治氏

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

日時：2018年8月31日(金) 10時～11時半

場所：サートン本館ファンクションルーム

参加費：無料

講演会のお申込み先

クルンテープ担当 渡邊：watanabe@jat.or.th 02-236-1201

なお、「バンコクの日本人」の合冊(両面コピー600頁程度、ソフトカバー製本)をご希望の方は、8月23日(木)までに、[murashim@waseda.jp](mailto:murashim@waseda.jp)宛(村嶋氏)にご連絡を頂ければ会場にて500パーツ(実費)で、お渡しいたします。



タイ国日本人会 ゴルフ部 第698回月例会成績

日時 2018年6月17日(日) 場所 ラムルッカC.C.

参加人数名 44名 (Aクラス20名 Bクラス17名 査定2名 体験5名)

Aクラス (平均スコア 45.6 42.7 88.3)

順位	名前	OUT	IN	GROSS	Hcp	NET	新HD
優勝	田中 康明	45	39	84	12	72	
2	山川 喜美代	45	41	86	12	74	
3	坂田 剛	41	40	81	7	74	
4	川俣 栄	41	41	82	8	74	
5	本田 晴彦	47	39	86	11	75	

Bクラス (平均スコア 49.6 48.7 98.2)

順位	名前	OUT	IN	GROSS	Hcp	NET	新HD
優勝	徳久 紀生	44	44	88	16	72	
2	井出 豊	49	46	95	21	74	
3	菊地 治枝	45	44	89	13	76	
4	原 勉	45	46	91	15	76	
5	福浦 一幸	44	47	91	15	76	

査定ラウンド6月度は2名でした。

名前	OUT	IN	GRS	提出平均GRS	提出推定HC	新HC	新クラス
岡本 喜八郎	51	52	103	87.2	12~14	14	B
村井 俊文	55	53	106	101.0	23~25	25	B

2018年1月より月例会の会場はラムルッカCCに変更になりました。

- 6月例会にて決勝が行われた、ハンデキャップ戦によるマッチプレー「クラブカップ戦」は杉浦隆行氏が制しました。初優勝です。おめでとうございます！
- 「ゴルフのルールを覚えたい」「競技ゴルフを楽しみたい」 ゴルフ部月例会で体験ラウンドに参加してみませんか！ご興味のある方はメールまたはお電話でお申し込みください。golifyoyaku@hotmail.com 089-056-8250迄
- 2015年7月例会よりハンデによるクラス分けが変更になりました。ハンデ12まで→Aクラス ハンデ13以上→Bクラス
- 月例会 ゴルフ部は、毎月第3日曜日にラムルッカCCにて競技会を行っております。  
A・B各クラスの優勝者にはSrixonSports(Thailand)Co.Ltd.様よりボール1ダースをご提供いただいております。  
ゴルフ部への入部は随時受け付けております。入部ご希望の方はゴルフ部のホームページをご覧ください。

ゴルフ部のホームページ(<http://www.jat-golf.org/>)で、月例会の成績、入部手続等々がご覧になれます。

発行 2018年8月1日  
 編集人 富永 康行  
 発行人 タイ国日本人会  
 印刷・製本 YAMAGATA(Thailand)Co., Ltd.  
 発行所 Japanese Association in Thailand  
 1stFL. Sathorn Thani Bldg. II  
 92/2 North Sathorn Rd., Bangkok  
 10500 Thailand  
 Tel. 0-2236-1201  
 Fax. 0-2236-1131  
 E-mail : info@jat.or.th  
 www.jat.or.th  
 編集協力 Plant Planet Co., Ltd.  
 レイアウト OT Promotion Co., Ltd.

〈非売品〉

落丁・乱丁の場合、事務局にてお取替えします。

禁 無断転載

【編集後記】  
 いったただたろうか。友人宅で食事をしたときのことである。バンコクのフリーペーパーが、ふと目に入った。パラパラとめくっていると、あるページでなぜか手が止まった。それは、hirokoさんの連載『人生一度きり』のページであった。今回の題は、『価値観は合わせるのではなく、認め合う』。日本にいるとき、そしてタイに来てから、ここ数年考えていることとドンピシャである。hirokoさんが仰るように、「価値観が同じ、ではなく、違う価値観を持ったまま話し合える」ことを大事にして、これからも豊かに生活していきたい。その意味からも、本誌編集に関わることができるとてもありがたいことである。

長坂祐哉

# バンコク短歌会

二〇一八年六月例会

六月十七日(日) 十七時十五分〜十九時十五分 パーソネルコンサルタント社  
(粒または自由題)

水兵リーベ粒子の結合なるわれが地球にひとりあなたを思ふ

イーブン美奈子

粒選りのスター演技に身をよぢり笑ひ止らぬ隣席の美恵子

大口堂遊

あんばんは粒餡よりも澆し餡が私は好きよ貴方はどっち?

大口乃り子

焼きナスのツブツブばかり摘み上げ前歯でプツンプツンやつつける

斎藤由利子

バンコクよりずっと大きな雨粒がロンジーの裾濡らす街辻

中人

厚揚げに粒マスタードをのせる君折り合いつけましょ和辛子混ぜて

那須世子

思い出をひと粒個々に携えてよく似た顔が勢揃いする

藤島みどり

ハママーンの指から溢れくる息の人形遣いの呼吸に重なる

森上美恵子

みずからを犠牲にせんとす尊さを聖書はみたり一粒の麦に

祐仙

新米のひと粒づつを大切についばんでおり桜文鳥

琉瑠

バンコク短歌会は、原則として毎月第四日曜日の十七時十五分から例会を開いています。  
詳しくは幹事の森上美恵子までご連絡ください。初めての方、大歓迎です。  
楽しく賑やかな会ですのでお気軽にどうぞ。ご参加をお待ちしております。  
電話 〇八九・八九一・一六八三 メール mickobkk@gmail.com

私、極度のツブツブ恐

怖症なのに、題を決める

係になって、「粒」を詠

んで下さいなんて言っ

やった……。三首作るま

で地肌から首筋、太もも

まで痒い！痒い！

一番ダメなのが葉裏に

整然と並んだ昆虫の卵。

おお痒っ！チアシードを

使ったタイのお菓子も食

べられません。いくらや

キャピアは大丈夫なのが

不思議。

勉強会も痒い！痒い！

拷問タイムでした。自業

自得か！？(由利子)



◎特集  
**第42回タイ国日本人会  
 ソフトボール大会  
 出場チーム紹介**

6月3日(日)、第42回ソフトボール大会が開幕しました。選抜リーグ12チーム、一般リーグ11チームが参戦、総勢499名の「バンコク球児」がバンコク日本人学校のグラウンドで熱戦を繰り広げています。優勝杯はどのチームに！

①メンバー構成 ②コメント

**ウイングス**



①前回大会とはメンバーが様変わりし、老若男女問わず混合チームとして、また全員参加の上での勝利を目指します。②チームの雰囲気、チームの連帯感はバンコクでNo.1ではないかと自負しております。

**バンコクメッツ**



①野球好き、ソフト好きが集まったクラブチーム。②若手からベテランまで幅広い世代で構成されたチームです。

**GAOS**



①アユタヤ銀行を中心としたMUFGIに助っ人を加えた混成チーム。③銀行員ならではの「堅い」守備、ゴルフで鍛えた「ミート力」、飲むコミュニケーションで培った「チームワーク」が特徴。エンジョイ・ソフトボールで頑張ります。

**選抜リーグ**



**コパッチ**



①常勝チームアパッチ傘下の弟チーム。②チームコンセプトは『全員野球で楽しくプレー！』ですが、勝ちにもこだわり、チーム一丸で試合に挑んでいます。今年こそ選抜リーグ予選突破を目指します！

**アパッチ**



①野球大好き仲間たち。②バンコクNo.1チームを目指し、コパッチと共に、野球に飲み会に(?)全力で頑張っています！今年を目指せ優勝!!! 新入部員、マネージャー募集中です！ブログもご覧くださいー！

**ウォーリアーズ**



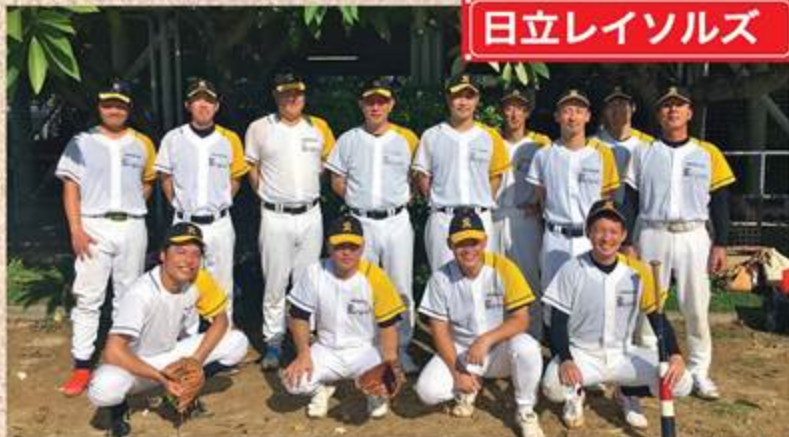
①業界、年齢問わずソフト好き、野球好きが集まって楽しくやっています。②優勝を目指し、チーム一丸となって優勝に突き進みます。

**三井物産**



①泰国三井物産、関係会社、及び取引先様等で構成。②怪我をせず、楽しむことを最大の目標としながらも、優勝を目指します。

## 日立レイソルズ



①日立グループを中核としていますが、今や非日立のメンバーの方が多くなっています。②明るく、楽しくそして勝つチームを目指しています。興味を持たれた方は連絡ください。always1484@gmail.com

## MinebeaMitsumi 峰熊



①ミネベアミツミ駐在員より構成された、35歳以下(例外あり)の若者チームです。②年々参加者が減り、厳しい状況ですが、選抜リーグに残れるように喰らいついていきます! 新入部員、マネージャーも絶賛募集中!

## 一般リーグ



## シーナカリンレッズ



①1999年にJETRO職員により設立され、シーナカリンウィロート大学を名前の由来とするチームです。紆余曲折を経て、今では大学もJETROも関係ないメンバーで構成されています。②近年、メンバーの帰国等で入れ替わりが激しく、寄せ集め感が満載ですが、「打って勝つ、とにかく勝つ」という伝統のチームスピリットを忘れることなく優勝を目指します。

## ボンバーズ



①年齢も個性も豊かな、酒とゴルフとソフトを愛するクラブチームです。②日本人大会2年ぶりの優勝、奪還目指して頑張ります! メンバー&マネージャーも随時募集中。

## ロングリアンガッツ



①日本人学校職員で構成。②仕事も趣味も、手を抜かないメンバーが多く、今年は30年度の先生が加わったことで、さらにすばらしいチームワークで試合に挑みます。全員出場、全試合勝利を目指して、楽しく頑張ります!

## SPIDER



①野球経験者が集まった野球・ゴルフ好き個性派チーム。②メンバーも増え充実した戦力と更なる個性派が集結。チームワークも上々、今年のBSL大会優勝に続き、3年振りの優勝を目指します。マネージャー随時募集中!

## LINTEC



①リンテック株式会社タイ駐在員を中心に、ソフト・野球好きなメンバーが集まりました。②怪我なく・楽しくをモットーに和気あいあいと活動しています。

## 豊通エンジェルス



①企業名がチーム名についておりますが、現在は所属企業に関係なくソフトボール好きが集まる同好会です。②チームのモットーは「全員で楽しんで勝つ」で全員出場で全勝優勝を目標に頑張ります。

## ゼロファイターズ



①仕事繋がりではなく、チームメンバーの紹介によって出来上がったチームです。②新監督の下、チーム一丸となって一般リーグの優勝を目指します!!

## ソムタムズ



①クラブチーム。②前身の国連エンゼルス時代から数えると大会参加チームの中で最も古いチームです。現チームになってから既に33年経ちました。今年是一般リーグに所属しています。今期は久しぶりに戦力が整っていますので、優勝を目指します。

## 丸紅



①Marubeni Thailandを中心とした混合チーム ②これまでと同様に、参加者全員が少なくとも一度はプレーすることを心がけております。スローガンは、『楽しく、ケガなく、全員野球!』。まずは楽しむことを忘れずに、今期も一つでも多くの勝利を目指します!!

## WISH



①ウォーリアーズ、ウイングスの兄弟チーム。10代から50代までの幅広い年齢層のソフトボール好きが集まりました。②老若男女を問わず、全員出場で勝利へ向けてゲームを楽しむ事をモットーに活動しております。

## 東レラッキーズ



①同グループ会社内の純血メンバーで参加しています。②メンバーの入れ替わりもありしばらく勝利から遠ざかっていますが、毎年楽しく参加させていただいています。対戦の際にはお手柔らかにお願いします!

## OBUYASHI



①タイ大林 職員・家族・OB。②ルール(法令)遵守。飲み会は内輪で。でも試合に勝っちゃったらパーツと打ち上げしまーす。戦力補強で今年は期待大?!

## KR



①仕事の付き合い先から、知り合い、紹介などの寄せ集めで構成。②昨年までは、参加数が少なく苦労しましたが、今年はずいぶん増えてきたので不戦敗の心配はなくなりました。頑張って一般リーグ優勝したいですね。

## Minebea O'suns



①ミネベアミツミグループの駐在員により構成された2チーム中、おっさん中心の二軍チームです。②仕事も家庭もソフトボールも、“情熱”、“違い”、“好奇心”を大切にしています。

## ■編集部遊びに来ませんか？

Look

10月5日(金)に日本人会別館で座談会(生活に役立つトピック)を行う予定です。見学大歓迎、お子様連れで(もちろんママお一人でも)気軽に遊びに来てください。編集部へのご連絡は [sukusukudayori@yahoo.co.jp](mailto:sukusukudayori@yahoo.co.jp) までお願いします。代表 平手由香里



6月1日(金)に座談会「テーマ:不用品買取り」が行われました。在タイ中、一度はお世話になる方も多いのでは?! この日編集部にも新メンバーが仲間入りしました

## キッズルーム

### ●プレパパ&ママクラス



ご夫婦で妊娠・出産・育児にどう向き合っていけばよいか…今回は助産師だけでなく、色彩心理セラピーも加わりました。…………… 5月19日(土)



### ●折り紙で作ろうハッピーカラーリース

束の間、自分の好きな色の折り紙を使っての創作に没頭してリフレッシュ。完成品を見て幸せな気分になりました。…………… 5月22日(火)



投稿/すくすくキッズルーム 島本道子

### ●親子ふれあいあそび会

〜あつまれすくすくっこ!〜

日本で一緒に働いていた保育士さん2人による息ぴったりな誘導で、子どもが喜ぶ、楽しいひとときを過ごしました。…………… 5月23日(水)

投稿/すくすくキッズルーム 島本道子



### ●ぷちアカリトミック



親子で体を使って楽しく遊べる人気の定番イベントです。…5月25日(金)  
投稿/すくすくキッズルーム 島本道子

### ●妊娠中からの母乳育児講座

妊婦さん方が、産後すぐに始まる母乳育児に備えて熱心に受講していました。この後、妊婦さん・子育てママさん方、そしてすくすく会のボランティアスタッフたちがとてもお世話になった助産師ゆうさんのFarewell Lunchも行われました。…………… 5月25日(金)



投稿/すくすくキッズルーム 島本道子

### ●動いて発散! 話して発散! ぷちアカリトミック×小児科ナースかおりとティータイム

10組の親子で盛り上がりました! ……6月15日(金)

投稿/すくすくキッズルーム 代表 藤井智子

### ●えいごで遊ぼう!

絵本やカードをみたり、歌をうたったり。身体も動かしながら、みんな英語で楽しく遊んでいました。

…………… 6月15日(金)



投稿/すくすくキッズルーム 代表 岡本知世

Check

すくすく会のホームページ

詳細・お申し込みはこちらから

<https://sukusukubkk.wixsite.com/sukusukukai>

## 出産準備教室

出産準備教室は、タイで生活されている妊婦さんとご家族を対象に出産準備母親教室と両親学級を開催しております。

Look

### ● 出産準備母親教室

【次回】9月5日(水) 9:30~11:30 (9:15 受付開始)  
妊娠中の生活と出産の流れ、パースプランについて、出産準備品の説明、タイで出産された方の体験談、フリートーク。産前・産後ママの気になる情報を是非この講座で聞いてみてください。経産婦さんでもお子さん連れでもご参加いただけます。お友達作りにも!

5月16日(水)の出産準備母親教室で、体験談をお話くださった石橋さん親子



### ● 両親学級

Look

【次回】10月27日(土) 9:30~11:30 (9:15 受付開始)  
沐浴、おむつ交換の実習、父親の妊婦体験ジャケット着用、父親体験談。プレパパとプレママで、実習をしながら出産について一緒に考えてみましょう! ご夫婦10組限定とさせていただきます。必ずご夫婦で参加ください。

6月16日(土)の両親学級で、体験談をお話くださった多湖さん家族



両親学級を開催した出産準備教室のMスタッフとボランティアの方

※両講座とも、日本人会別館開催。参加条件:すくすく会会員。参加費無料、テキスト代100B。開催日程確認と受講のお申込みは、すくすく会HP出産準備教室のページまで!

出産準備教室では、タイでの出産、体験談をお話しくださるパパさん・ママさん、そしてボランティアスタッフを随時募集しております。ご協力いただける方はsyussan.meeting@gmail.comまでご連絡ください。

## おっぱいミーティング

妊婦さんには授乳についての講義を、産後のママさんには育児についての様々な悩みや疑問を、スタッフの体験談を交え座談会形式で行っています。基本的に、毎月第3火曜日に、サミティベート病院で開催。

### ● 今後の予定

Look

8月はお休み

9月18日(火) 9:30~11:30 申し込みはHPより



日頃の悩みや思いを分かち合いましょう

By Azusa Uchida Photography

## わんぱくミーティング

### ● 講演会「こどものアレルギーのお話」開催

6月12日(火)、バムルンラード病院のヒロシ先生をお招きして「こどものアレルギーのお話」と題して講演を行いました。当日は19組の親子にご参加いただき、大変ためになったと好評でした。投稿/藤井智子



## すくすくだより編集部

■「すくすくだより」はちゃんと届いていますか?  
「すくすくだより」はすくすく会会員のための会報誌です。偶数月の月初に日本人会から会員宛に郵送されます。もしも、ご指定の住所に届いていないようでしたら、日本人会別館(02-662-4948~9)までご連絡ください。

### ■ 次号のお知らせ

「すくすくだより8月&9月号(203)」は『ママと子どもの習い事(仮)』、「すくすくだより10月&11月号(204)」は『旅行記2018』を予定。

NO MORE WAITING  
**PERFECTION  
IS UNLEASHED**



**HYBRID**

**TNGA**  
Toyota New Global Architecture

**TELEMATICS**

Toyota  
Safety  
Sense

**LIMITLESS AUTOMOTIVE ENGINEERING**

GO BEYOND ALL RESTRICTIONS WITH EVER BETTER IDEOLOGY THROUGH DISTINCTIVE DESIGN AND PRECISE PERFORMANCE ALONG WITH INNOVATIVE TECHNOLOGY THAT REDEFINES TRUE PERFECTION.

ALL NEW  
**C-HR**  
IRRESISTIBLE

**PERFECT EXPERIENCE**

THE ALL NEW C-HR HEIGHTENS EVERY ASPECT OF YOUR LIFESTYLE, MAKING IT THE ONE AND ONLY AUTOMOBILE THAT'S IRRESISTIBLE.

